

今治市 人口データ 調査報告書

令和6年11月

目次

比較対象都市	P3
サマリー	P4
Ⅰ. 人口	
1. 将来推計人口	P10
2. 自然動態	P14
3. 社会動態	P16
4. 世帯	P26
5. 婚姻	P33

比較対象都市

調査で使用している比較対象都市一覧

✓ 下表のとおり、今治市の各データの比較対象都市を設定した。

NO.	都道府県	団体名	人口（令和2年）
#	愛媛県	今治市	151,672人
1	愛媛県	松山市	511,192人
2	愛媛県	新居浜市	115,983人
3	愛媛県	西条市	104,791人
4	愛媛県	四国中央市	82,754人
5	広島県	尾道市	131,170人

人口 | サマリー

- ✓ 人口の面では、自然減少、社会減少が著しいこと、外国人人口の割合が多いことが特徴として挙げられる。
- ✓ 特に、15歳～19歳の大学進学を契機とした転出だけでなく、20歳～24歳の女性の転出が非常に多いことが課題として挙げられ、若い女性の転出を防止するような施策が急務となっている。
- ✓ また、外国人の割合は今後も増加していくことが予想されるため、多文化共生に向けた施策の必要が一層高まっていると思われる。

関連指標の調査結果

求められる対応

1

出生数が少なく、自然減が進んでいる

- ✓ 人口の自然減が進行しており、2022年時点では出生数と死亡数に3倍以上の差がみられる
- ✓ 近隣団体の中では、2022年の人口1万人当たり出生数が尾道市に次いで2番目に低い水準にある

出生数増加のための要因分析が必要である

- ✓ 今治市は、自然減少が常態化しているため、他市と比較して出生率が低い要因を定量的・定性的に分析し、適格な対策を講じる必要がある

2

15歳～29歳の若者の転出が著しい

- ✓ 一貫して社会減が続いている中、特に15歳～29歳の転出が著しい
- ✓ 特に20歳～24歳女性の転出が多く、松山市や、大阪市、広島市などの政令指定都市への転出が多い

若い女性の転出抑制のための施策が必要である

- ✓ 15～19歳の大学進学を契機とした転出が多い一方、Uターンの割合が少ないことが分かるため、引き続きUターンの促進を図る必要がある。
- ✓ 20～24歳女性の転出が多くなっており、大学進学とは別の要因で市外に転出している様子が見えるため、転出の要因を分析し、女性目線での施策実施が必要である。

3

人口に占める外国人の割合が多い

- ✓ 外国人人口の推移は年々増加しており、比較対象団体の中で人口に占める外国人の割合が最も多い
- ✓ 市内外国人のうち、中国、フィリピン、ベトナム出身の外国人が多い

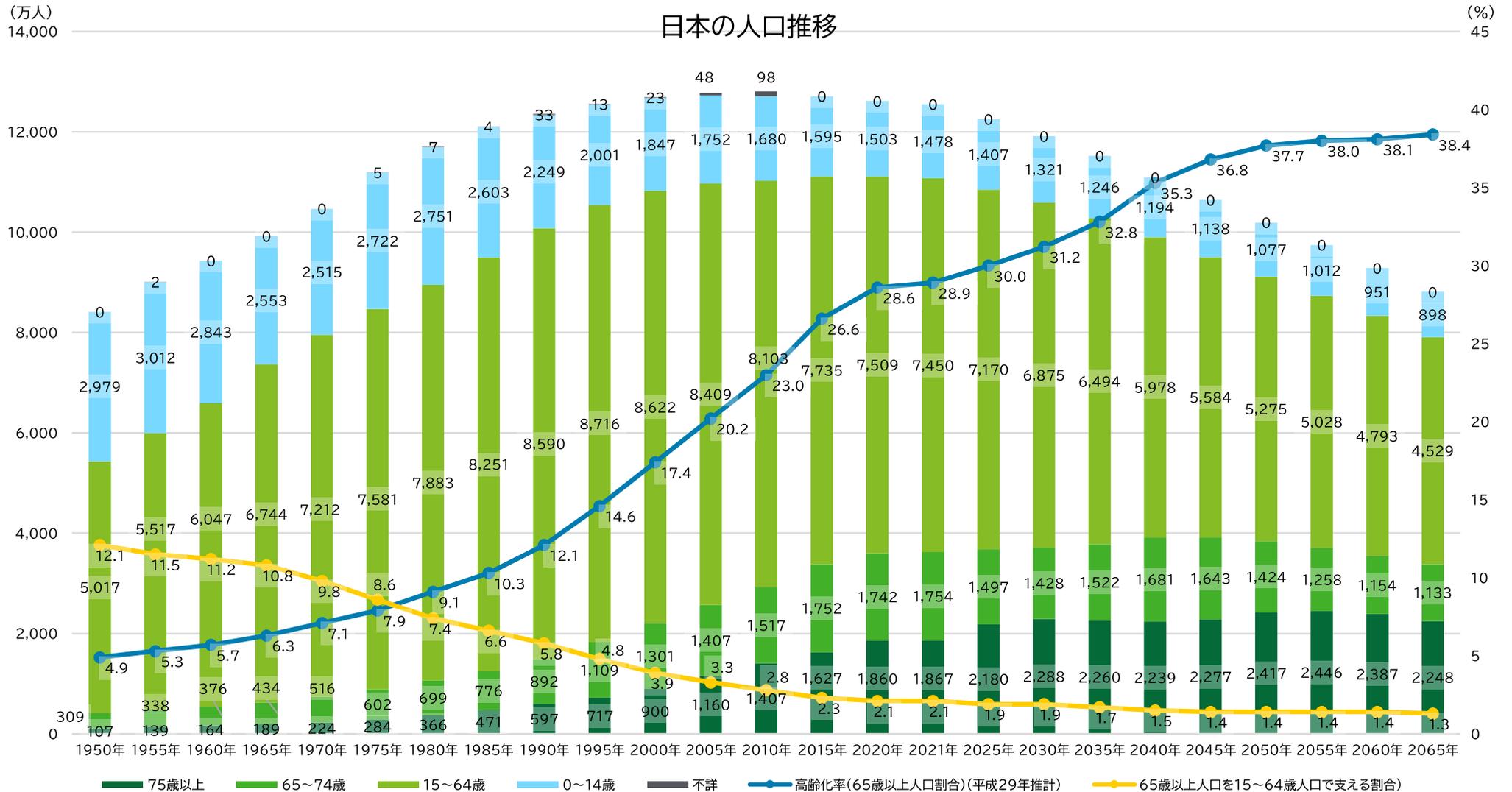
外国人との共生を意識した施策が必要である

- ✓ 今後、労働人口の減少により、市内の外国人労働者の需要はさらに高まるものと思われるが、外国人に選ばれる町となるよう、給与以外のまちづくりの面での今治市の優位性を出していく必要がある。
- ✓ 外国人が増加する中で、日本人と外国人の共生ができるよう、互いの文化の理解促進や市内の外国語対応などの施策に取り組む必要がある、

1. 将来人口推計

日本の人口推移

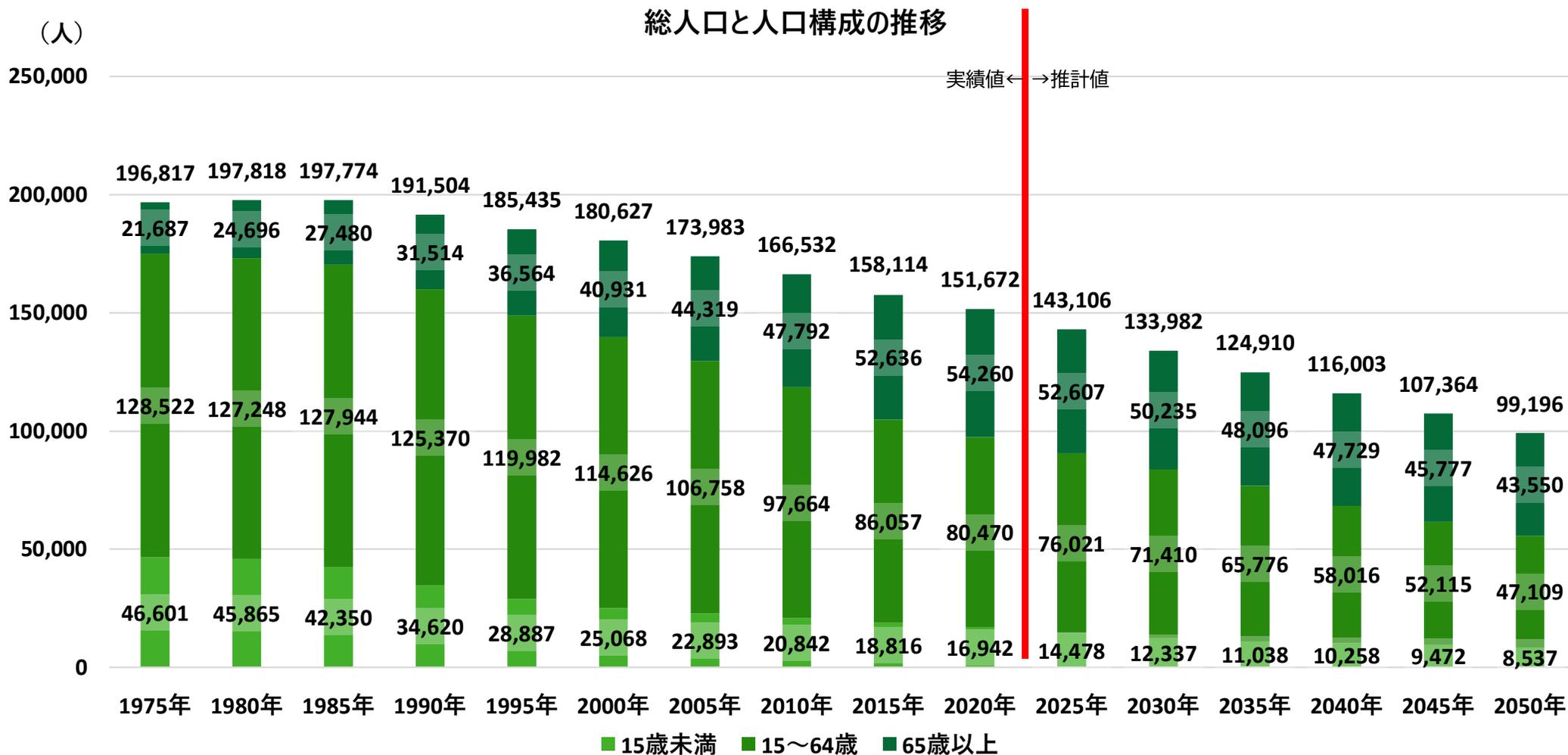
- ✓ 少子高齢化の進行により、日本の生産年齢人口(15~64歳)は1995年をピークに減少しており、2050年には5,275万人に減少すると見込まれている。
- ✓ 生産年齢人口の減少により、労働力の不足、国内需要の減少による経済規模の縮小など、社会的・経済的課題の深刻化が懸念される。



1. 将来人口推計

総人口と人口構成の推移

- ✓ 今治市の総人口は1985年から減少を続けており、2020年時点の総人口は1980年時点の人口と比較して4分の1程度となっている。
- ✓ 国立社会保障・人口問題研究所の推計によると2025年以降も人口は減少し続け、2050年には総人口が10万人を下回る予測となっている。
- ✓ 老年人口は2020年まで一貫して増加傾向であったが、2025年からは老年人口も減少傾向となり、さらに人口減少が加速する予測となっている。



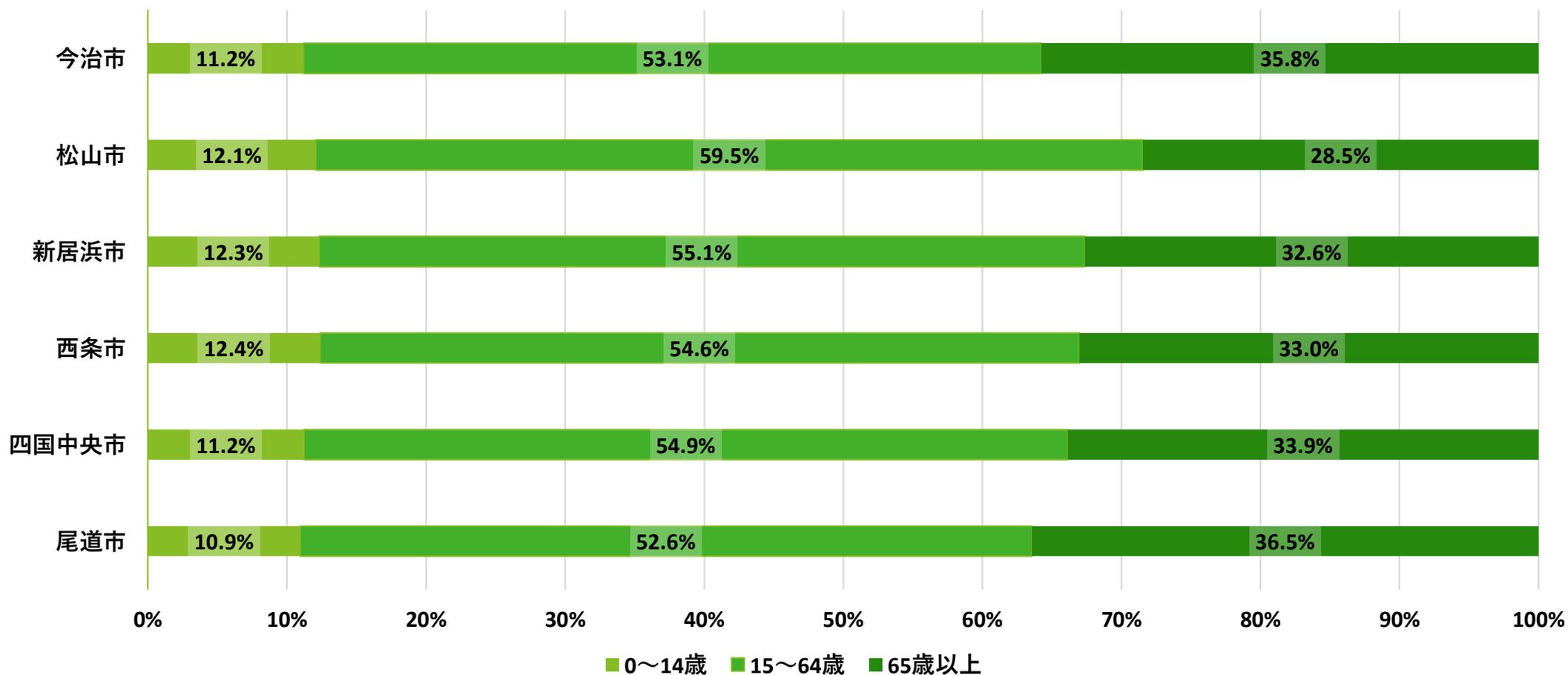
※総人口は不詳人口込みの数字のため、各年齢別人口の合計値と総人口は必ずしも一致しない
 出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

1.将来人口推計

人口の年齢構成の比較

✓ 今治市は、愛媛県他市と比較すると、年少人口の割合が低く、老年人口の割合が高い傾向にある。愛媛県内の比較対象都市では、年少人口の割合は西条市が最も高く、老年人口の割合は松山市が最も低い。

人口の年齢構成の比較（2020年）

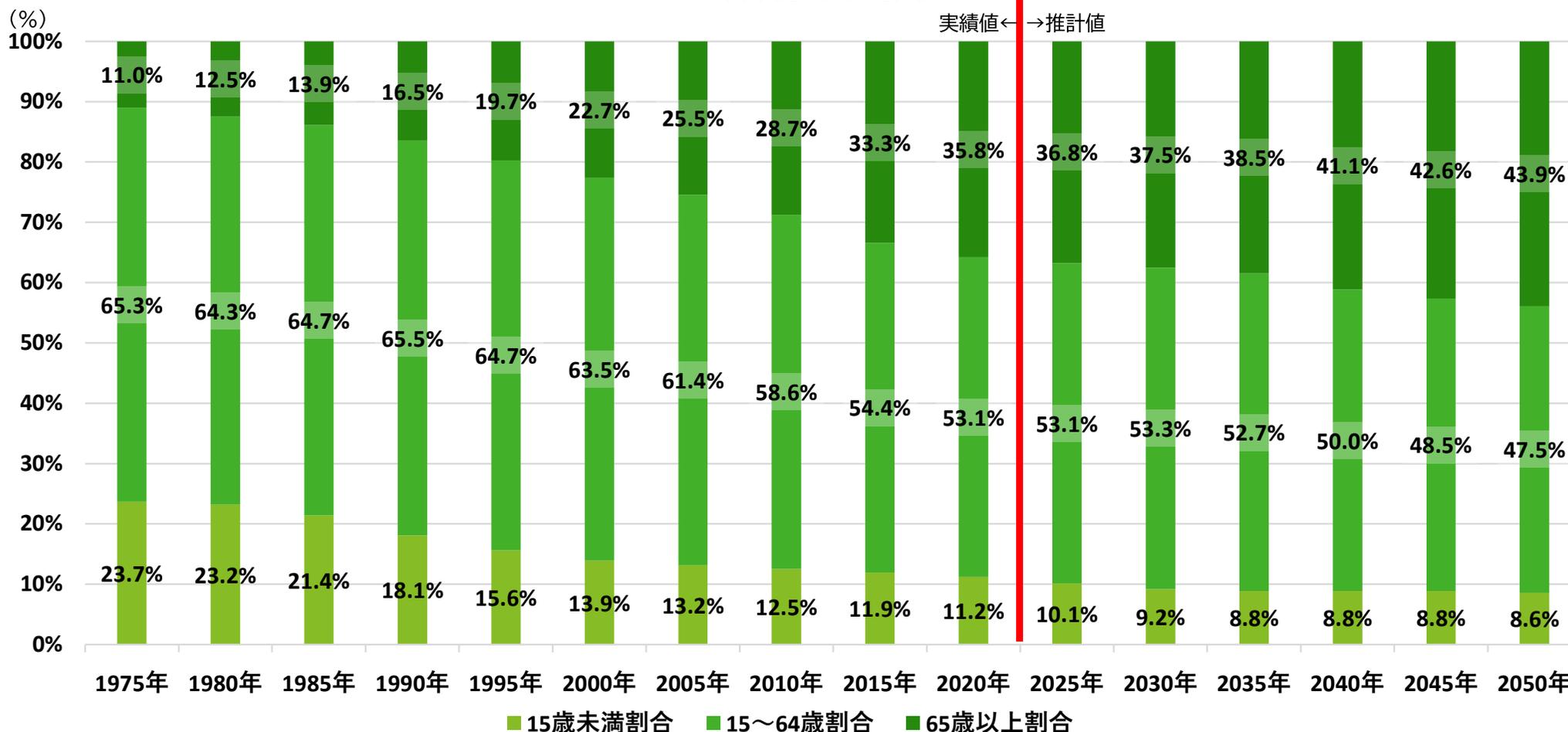


1.将来人口推計

人口の年齢構成比の推移

- ✓ 今治市の人口年齢構成比は、2020年時点で年少人口が11.2%、老年人口が35.8%であり、少子高齢化が急速に進行している。
- ✓ 2020年以降も老年人口の割合は増加し続け、2050年には、生産年齢人口と老年人口の割合がほぼ同水準となる見込みである。
- ✓ 特に生産年齢人口割合の減少が著しく、今後、老年人口割合の増加による扶助費等の増加に対し、歳入が追い付かなくなる可能性がある。

人口の年齢構成比の推移

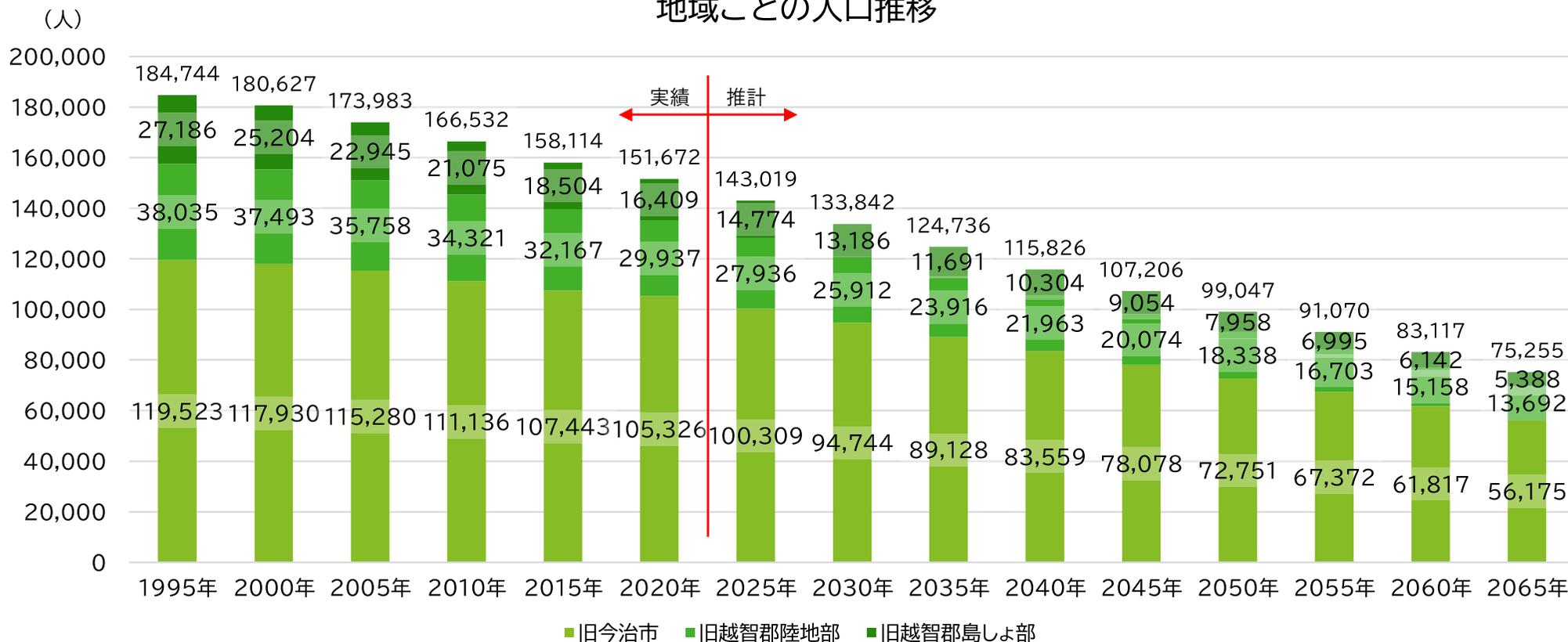


1. 将来人口推計

地区別人口の推移

- ✓ 地域ごとの人口推計及び推移をみると、旧今治市、旧越智郡陸地部、旧越智郡島しょ部のいずれにおいても人口が減少傾向にある。
- ✓ 特に島しょ部については、2020年から2065年にかけて人口が1/3程度になるものと想定され、島しょ部の住民の生活維持が課題となると思われる

地域ごとの人口推移



出典：2020年以前・・・総務省「国勢調査」

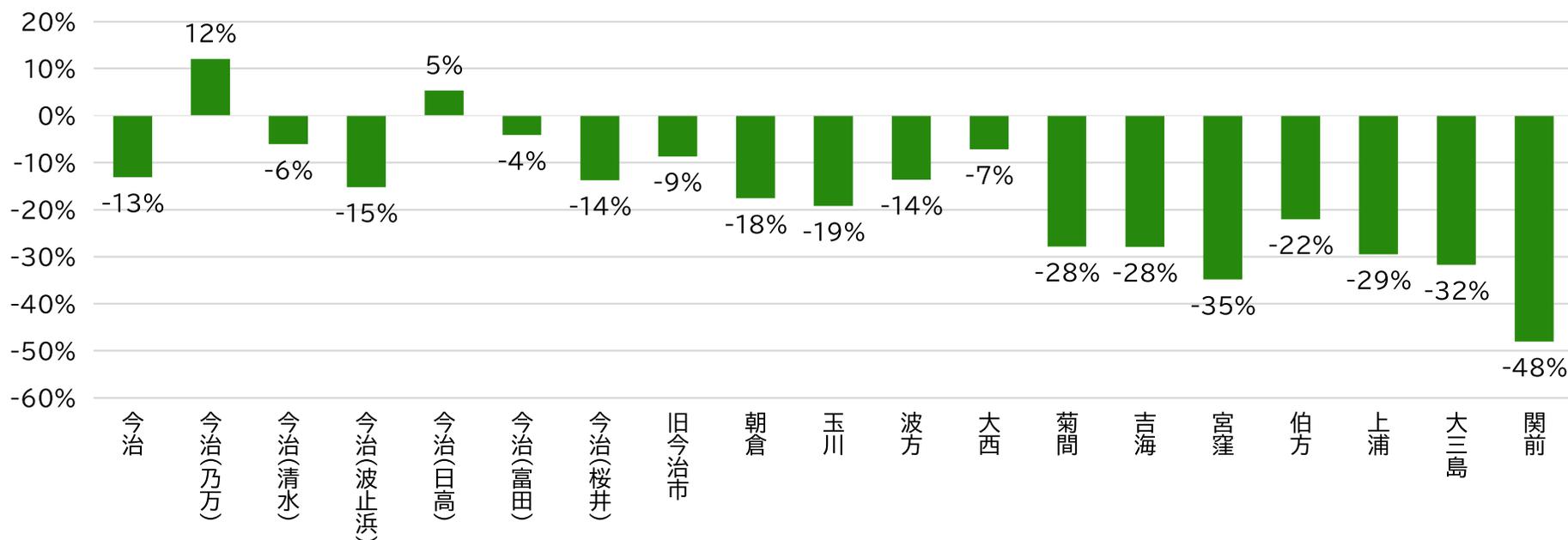
2025年以降・・・総務省「国勢調査」及び国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」をもとに独自推計

1.将来人口推計

地区別人口の推移

- ✓ 地域ごとの人口について、合併後の2005年から2020年にかけての人口増減率を見ると、今治(乃万)地域、今治(日高)地域を除くほとんどの地域で人口が減少している。
- ✓ 特に旧越智郡陸地部、島しょ部では人口減少が著しい上に、旧今治市域においても今治、今治(波止浜)、今治(桜井)では人口が約15%程度減少していることが分かる。

地域ごとの人口増減率(2005年～2020年)

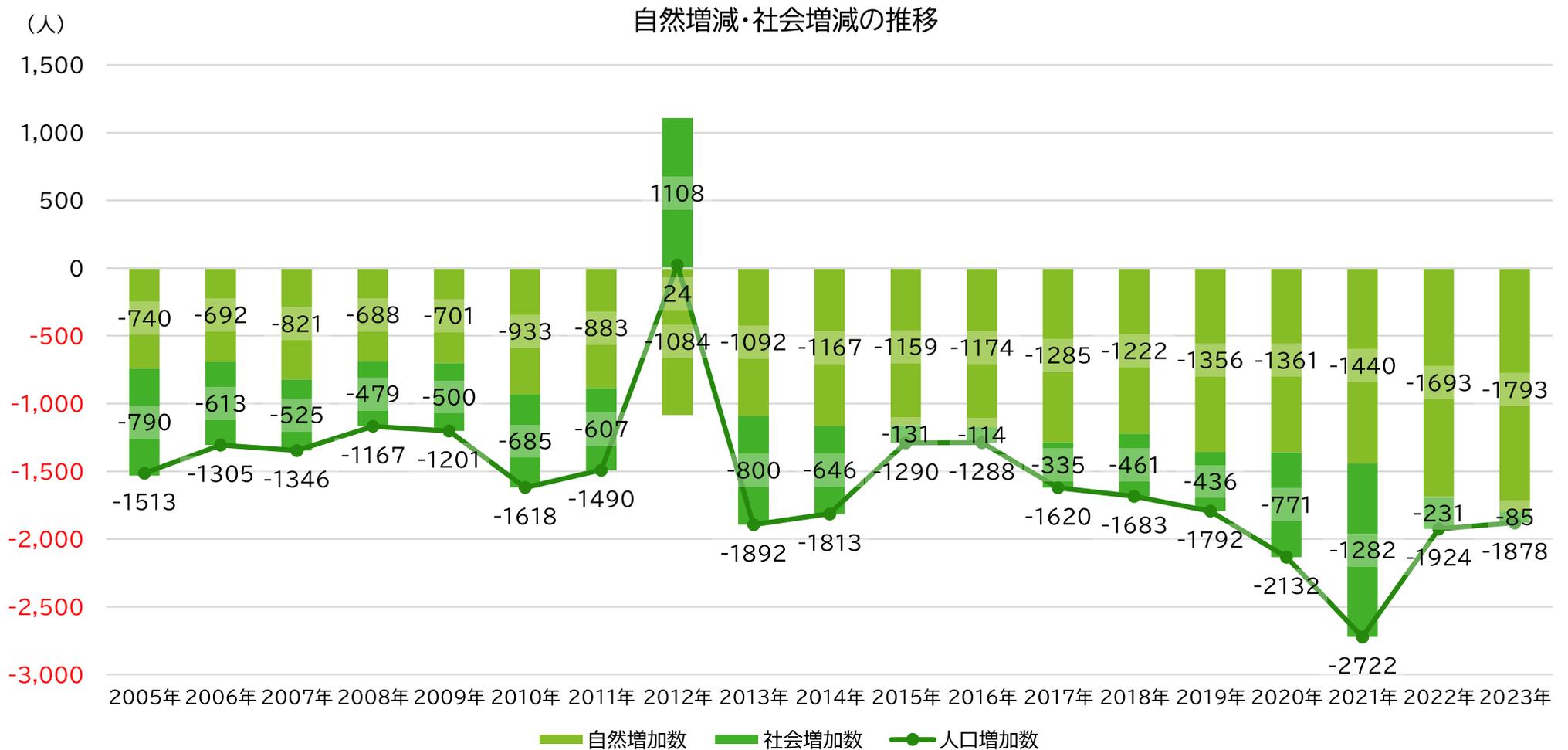


出典:2020年以前・・・総務省「国勢調査」
2025年以降・・・総務省「国勢調査」及び国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」をもとに独自推計

2.自然動態、3.社会動態

自然増減、社会増減の推移

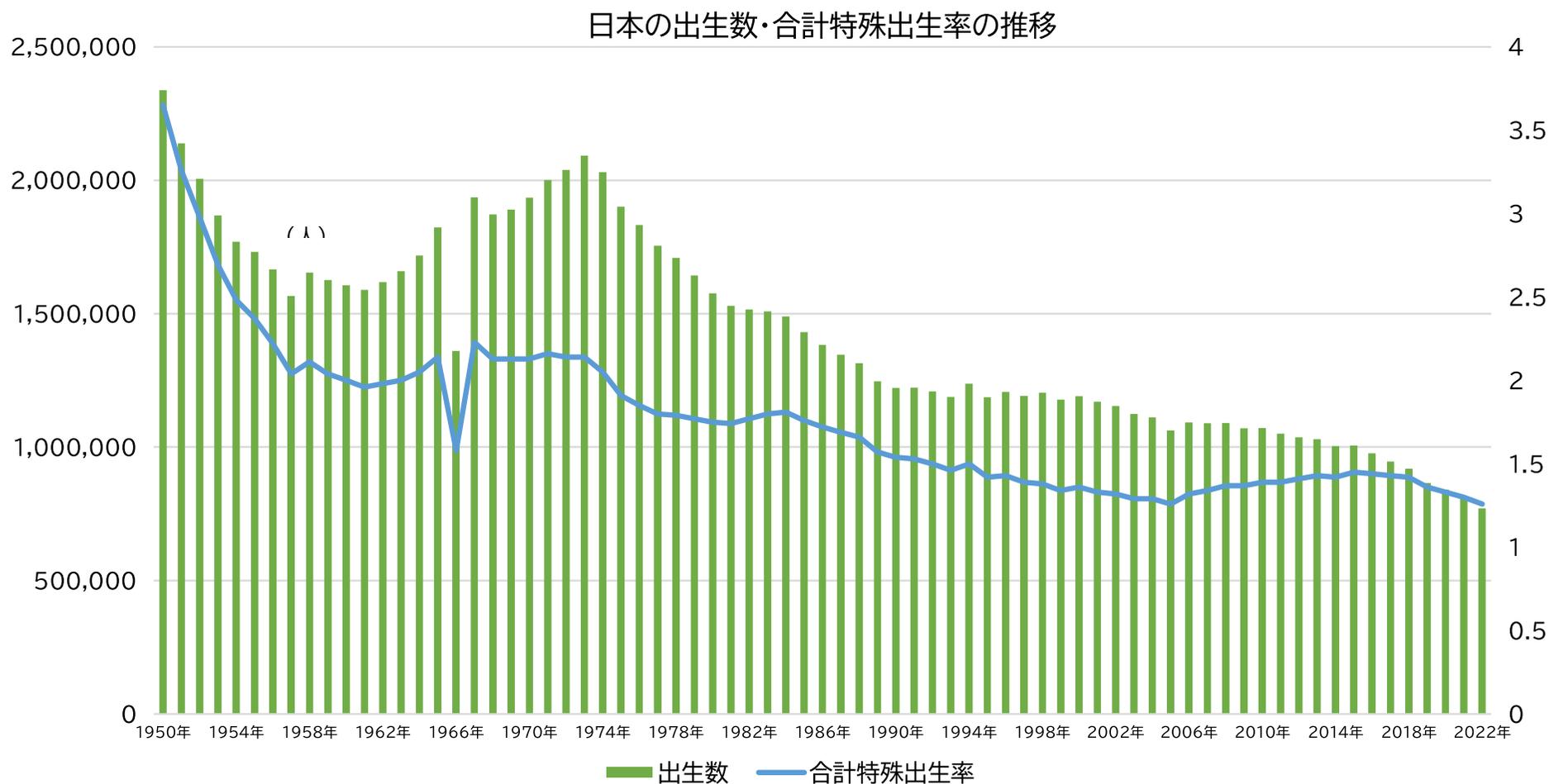
✓ 今治市は、2005年以降、2012年を除くすべての年度で自然減、社会減が続いている。なお、2012年は、調査対象に外国人が追加され、従前から市内に居住していた外国人が社会移動に計上されたことにより、数値上で社会増となっているものである。



2.自然動態

日本の出生数・合計特殊出生率の推移

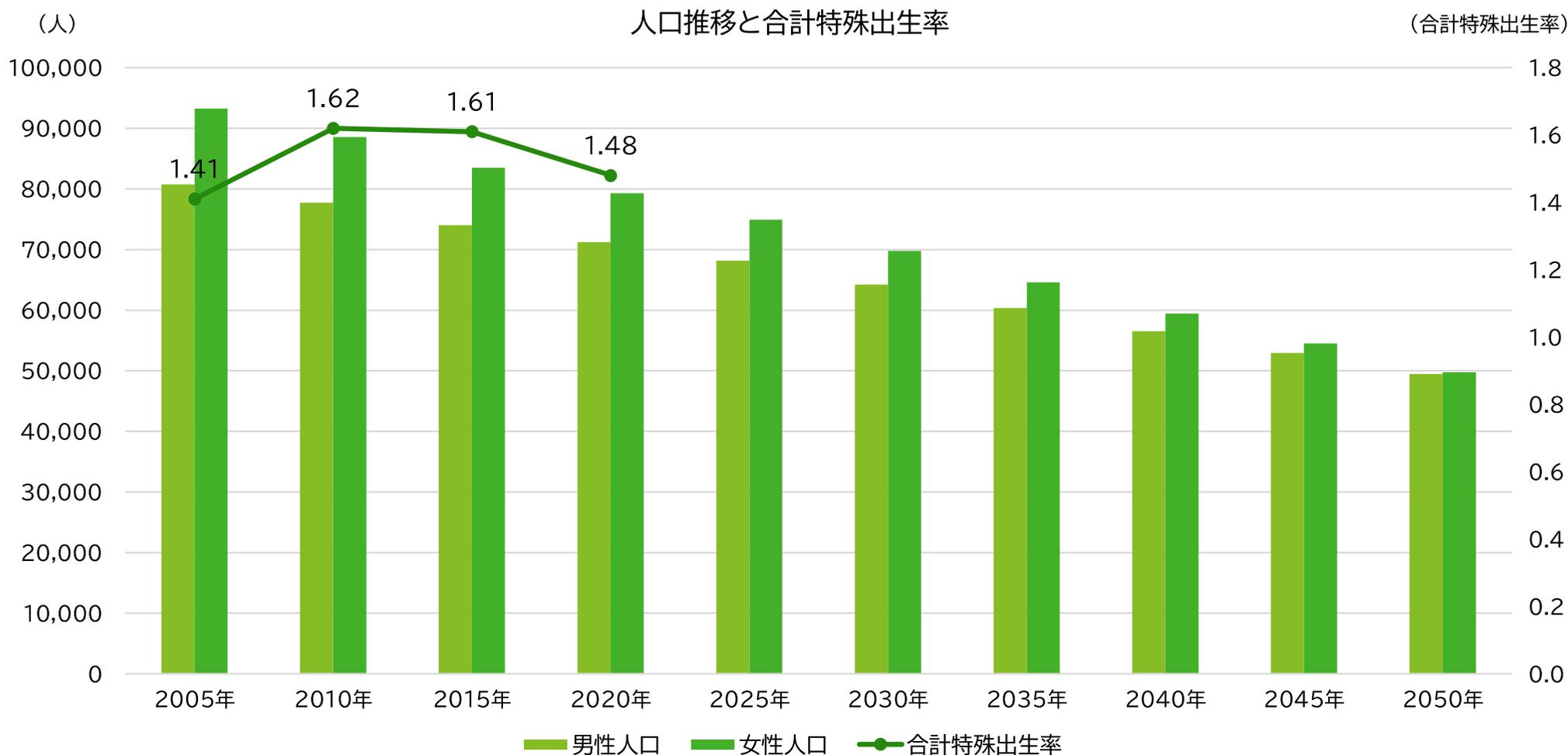
- ✓ 日本国内の出生数と合計特殊出生率の推移をみると、出生数は1973年をピークに一貫して減少し続け、2016年には1950年以降の統計で初めて100万人を下回った。
- ✓ 合計特殊出生率もそれとともに低下していたが、2005年以降は微増傾向に転じ、1.4前後を推移している。
- ✓ 今後、合計特殊出生率は現在の水準を推移すると考えられるが、若年層の全体的な減少により出生数の低下は継続すると推察される。



2.自然動態

人口推移と合計特殊出生率

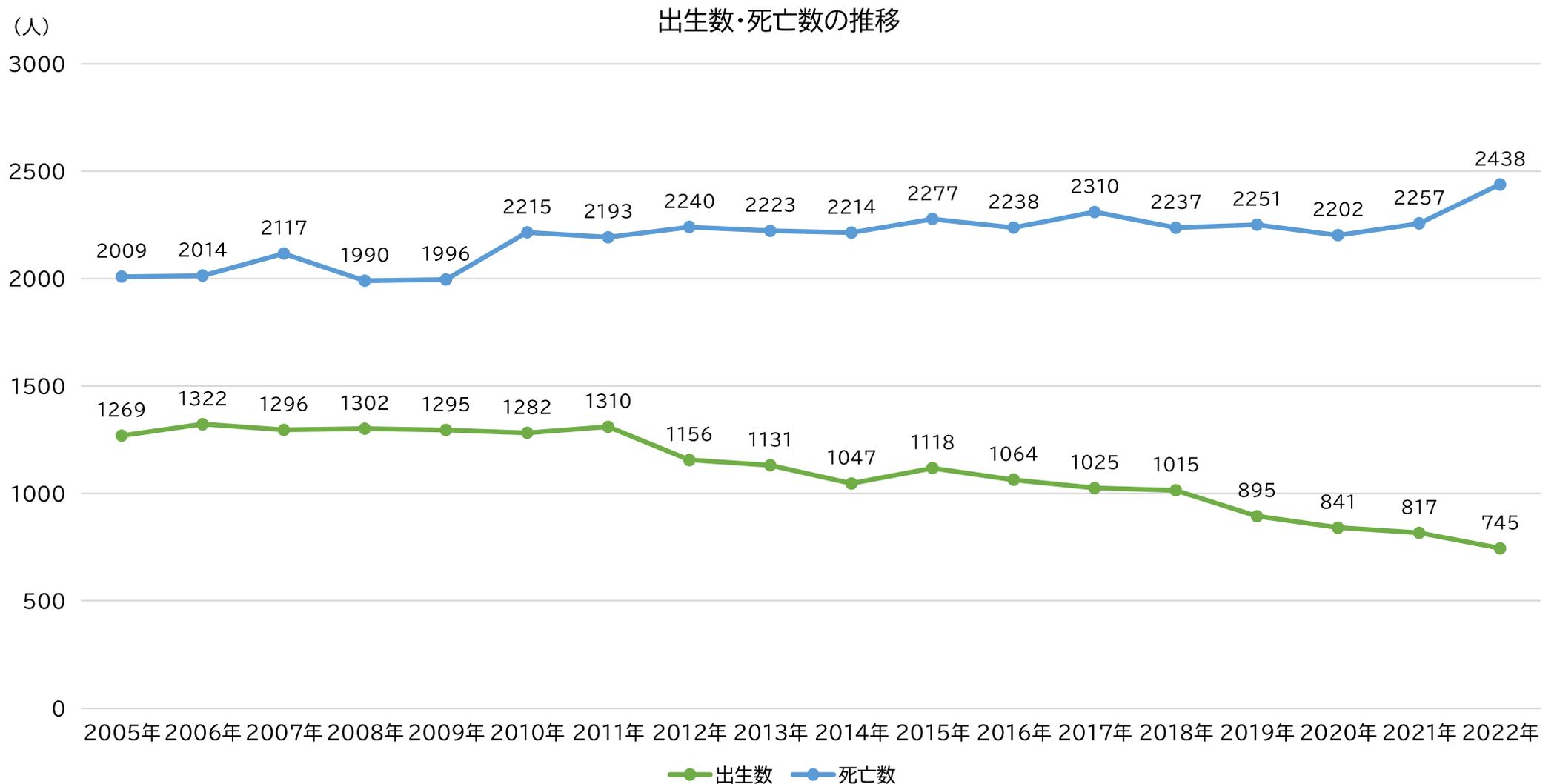
- ✓ 今治市の男女別人口は、女性人口が男性人口を上回る形で推移しているものの、男女ともに検証傾向となっている。
- ✓ 合計特殊出生率は、2010年時点では上昇傾向にあったものの、近年は下落傾向となっている。



2.自然動態

出生数・死亡数の推移

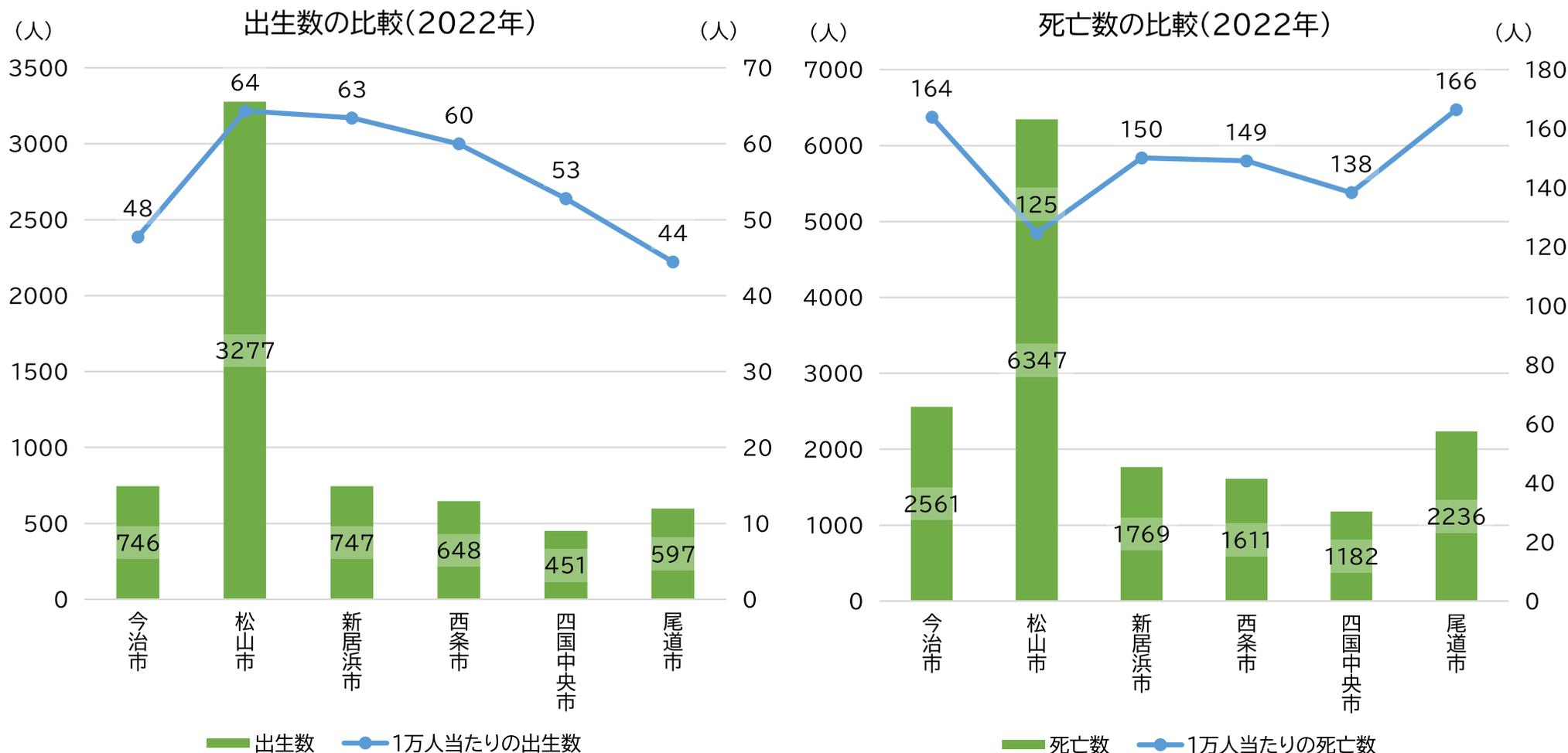
- ✓ 出生数は一貫して減少、死亡数は一貫して増加しており、その差が年々広がっている。
- ✓ 2022年時点では、出生数と死亡数に3倍以上の差がみられ、人口減少に大きく影響していることがうかがえる。



2.自然動態

出生数・死亡数の比較

- ✓ 今治市の1万人当たりの出生数は、比較対象団体の中で尾道市に次いで2番目に低い水準であり、愛媛県の比較対象団体の中では特に低い水準となっている
- ✓ 一方で1万人あたりの死亡数は比較対象団体の中では尾道市に次いで2番目に高く、愛媛県の比較対象団体の中では特に高い水準となっており、今治市の自然減の進行が突出して早いことがうかがえる

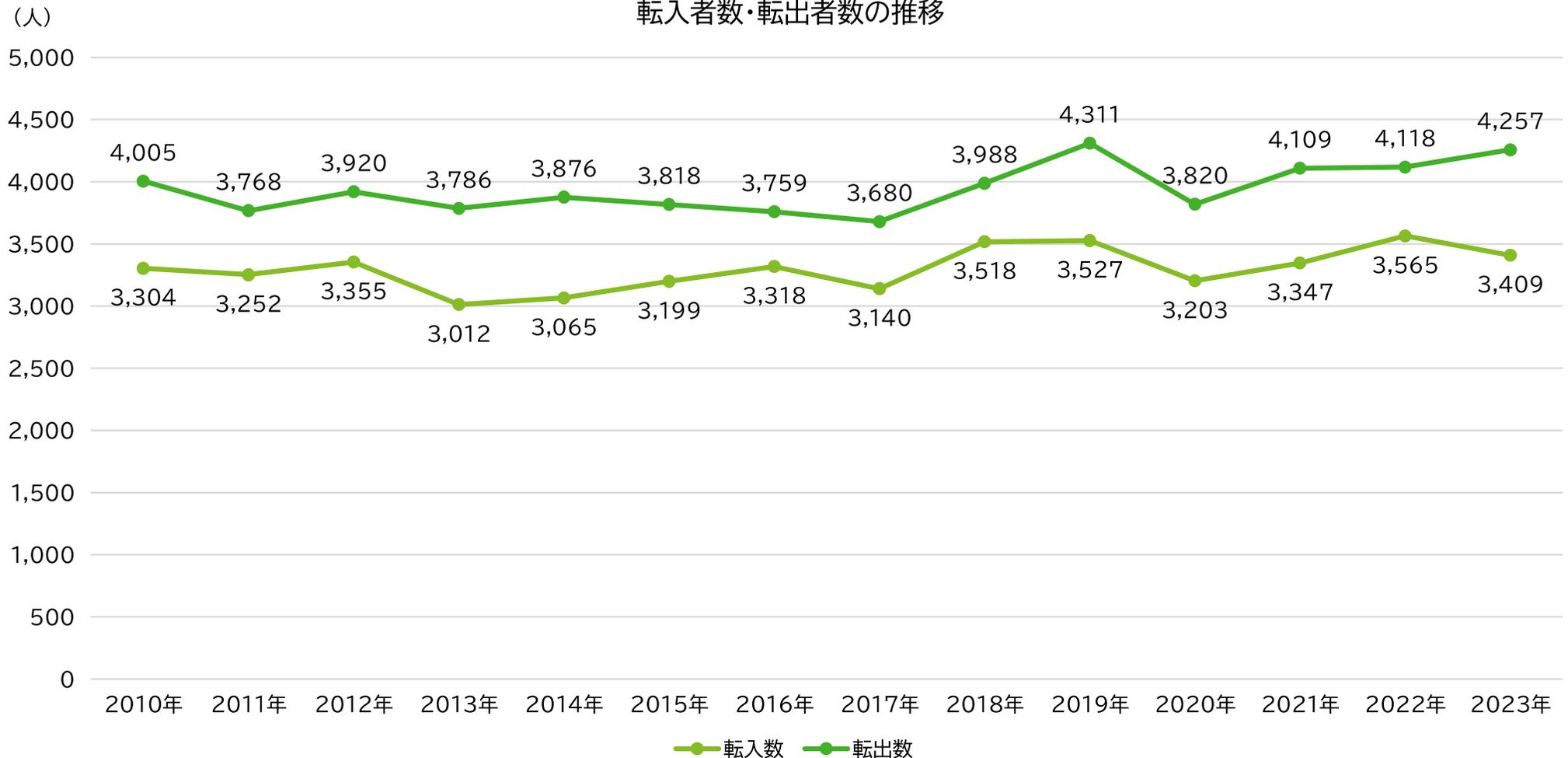


3.社会動態

転入者数・転出者数の推移

- ✓ 一貫して転出者数が転入者数を上回る社会減の傾向にある。
- ✓ 転入者数、転出者数ともに大きな変動は見られないものの、転出者数は2021年以降は4000人を超える人数で推移しており、やや転出者数が増加傾向にあると見られる。

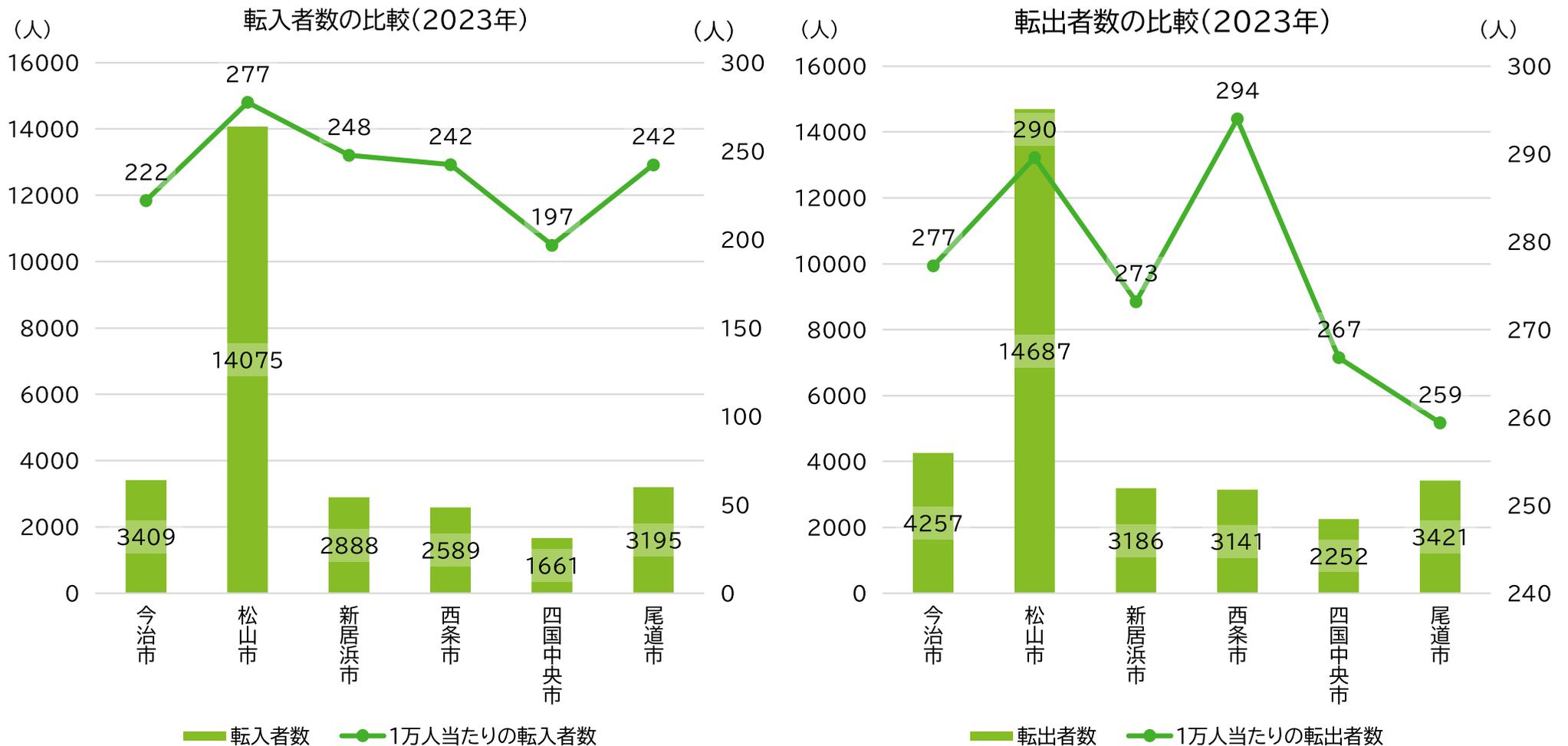
転入者数・転出者数の推移



3.社会動態

転入者数・転出者数の比較

- ✓ 今治市の人口1万人当たりの転入者数は四国中央市に次いで二番目に少なく、転入者数の増加の余地は残されているものと思われる。
- ✓ 一方で、人口1万人当たりの転出者数は最も少なく、今治市は、比較対象都市の中ではやや人口移動が緩やかであることが分かる。

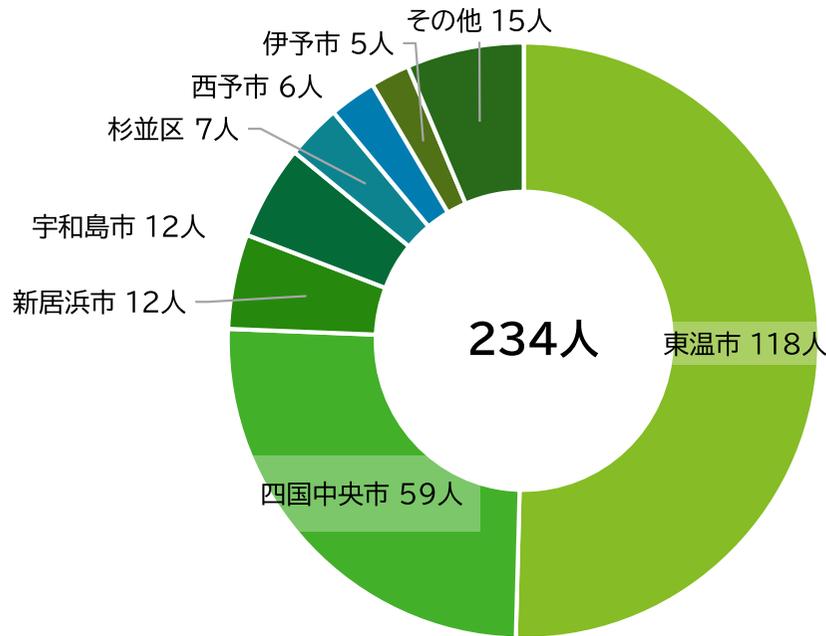


3.社会動態

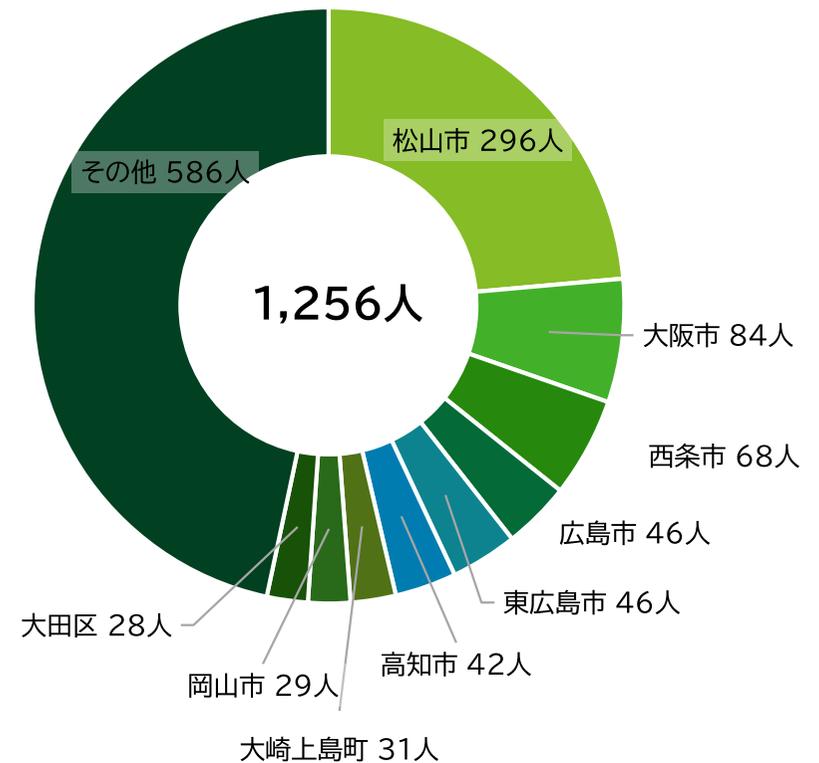
転入・転出の地域別構成

✓ 今治市の転入超過、転出超過の地域内訳を見ると転入では東温市、四国中央市と、近隣自治体からの転入が多い。一方、転出超過を見ると、全体の1/4は松山市に転出しているほか、大阪市、広島市、岡山市など、西日本の政令都市への転出超過が多い。

転入超過数の地域内訳(2023年)



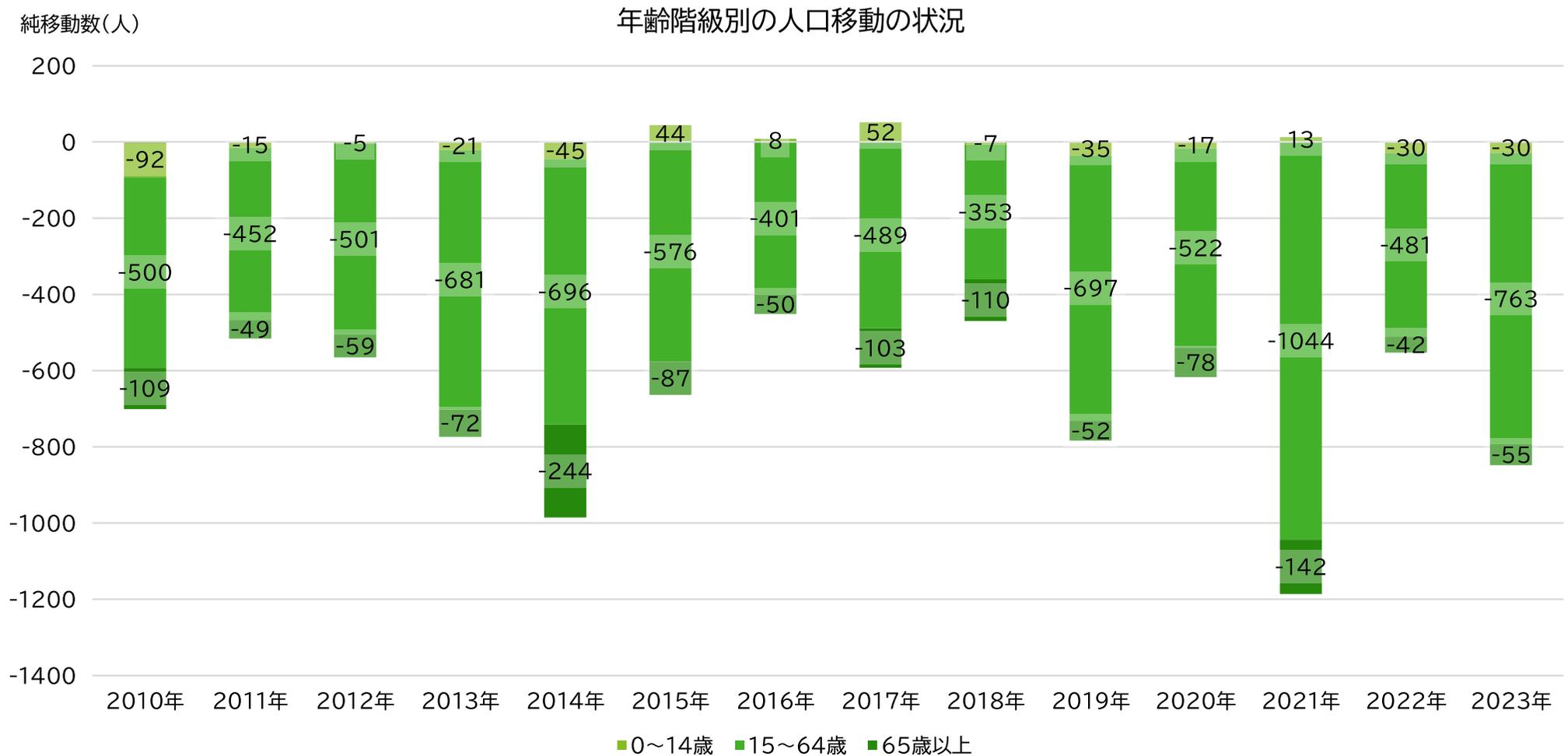
転出超過数の地域内訳(2023年)



3.社会動態

年齢階級別の人口移動状況

- ✓ 一部の年で年少人口(0~14歳)の転入超過がみられるものの、各年代で概ね一貫して転出超過が続いている。
- ✓ 各年代の転出状況の規則性は見れないものの、生産年齢人口(15~64歳)の転出超過が著しいことが分かる。

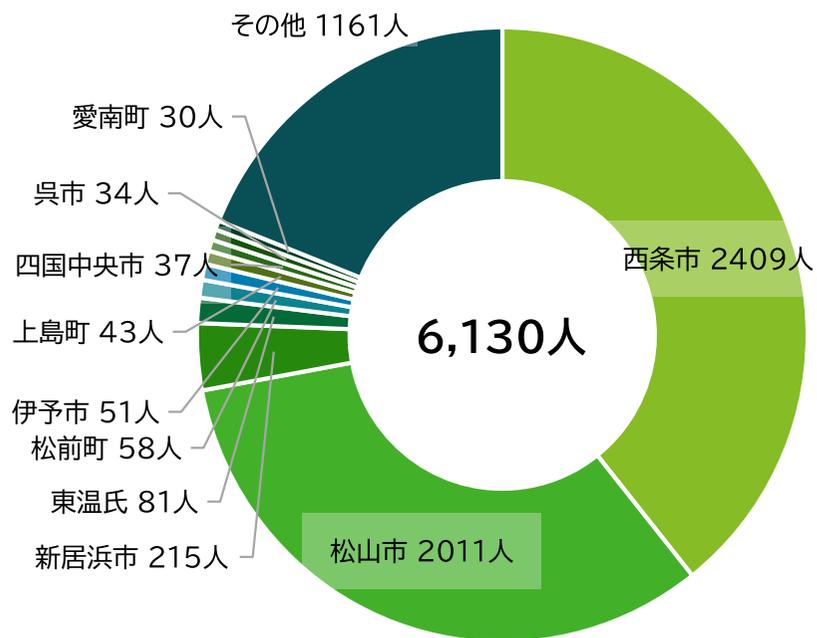


3.社会動態

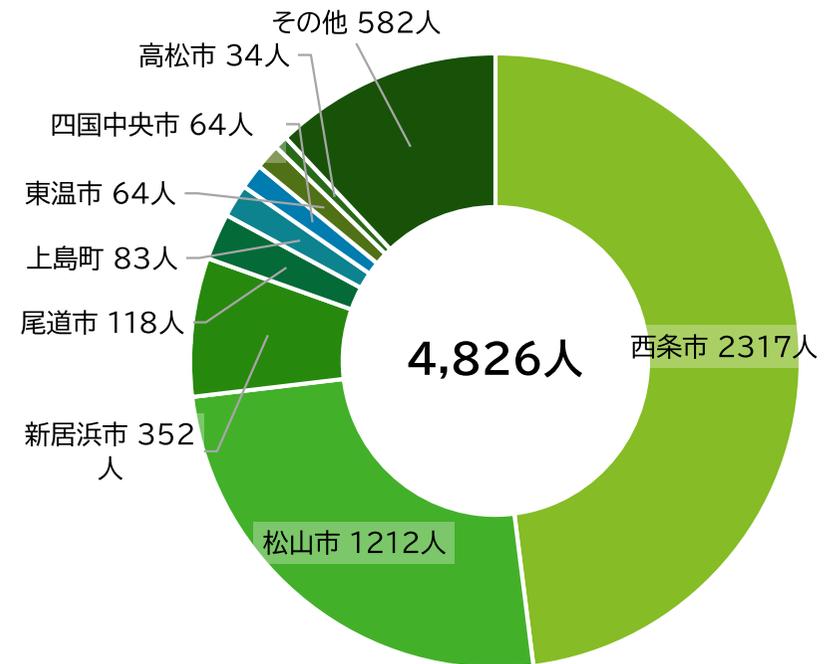
流入・流出人口の地域別構成(通勤者)

- ✓ 今治市は、流入通勤者数が流出通勤者数を上回っており、今治市内での雇用環境が比較的整っているものと考えられる。
- ✓ 特に西条市、松山市からの通勤者が多く、それらの通勤者を転入者として今治市に迎えることが、社会増減の改善の一助になる可能性がある。

市内への流入通勤者数(2020年)



市外への流出通勤者数(2020年)

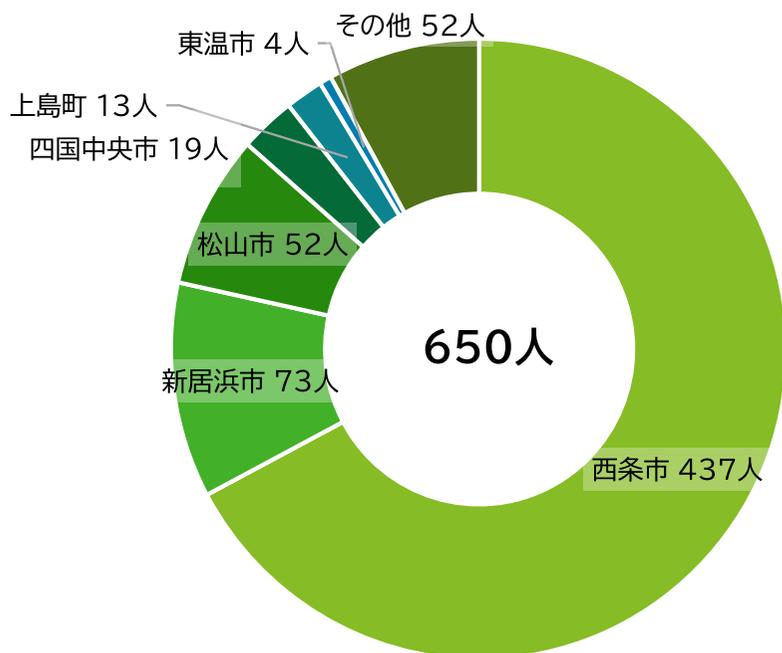


3.社会動態

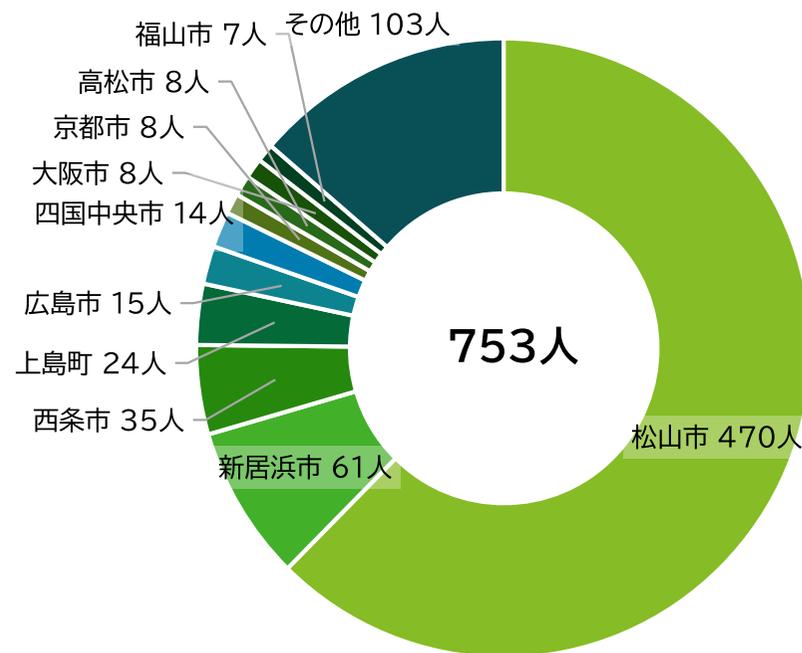
流入・流出人口の地域別構成(通学者)

- ✓ 今治市内への流入通学者数を見ると、西条市から今治市内へ通学する学生が全体の3分の2程度を占めている。
- ✓ 今治市からの流出通学者数を見ると、市外へ通学する学生のうち、今治市から松山市へ通学する学生が全体の3分の2程度を占めている。松山市には、愛媛大学などの大学機関が複数あり、今治市の自宅から松山市の大学に通う学生が多くなっていると思われる。

市内への流入通学者数(2020年)



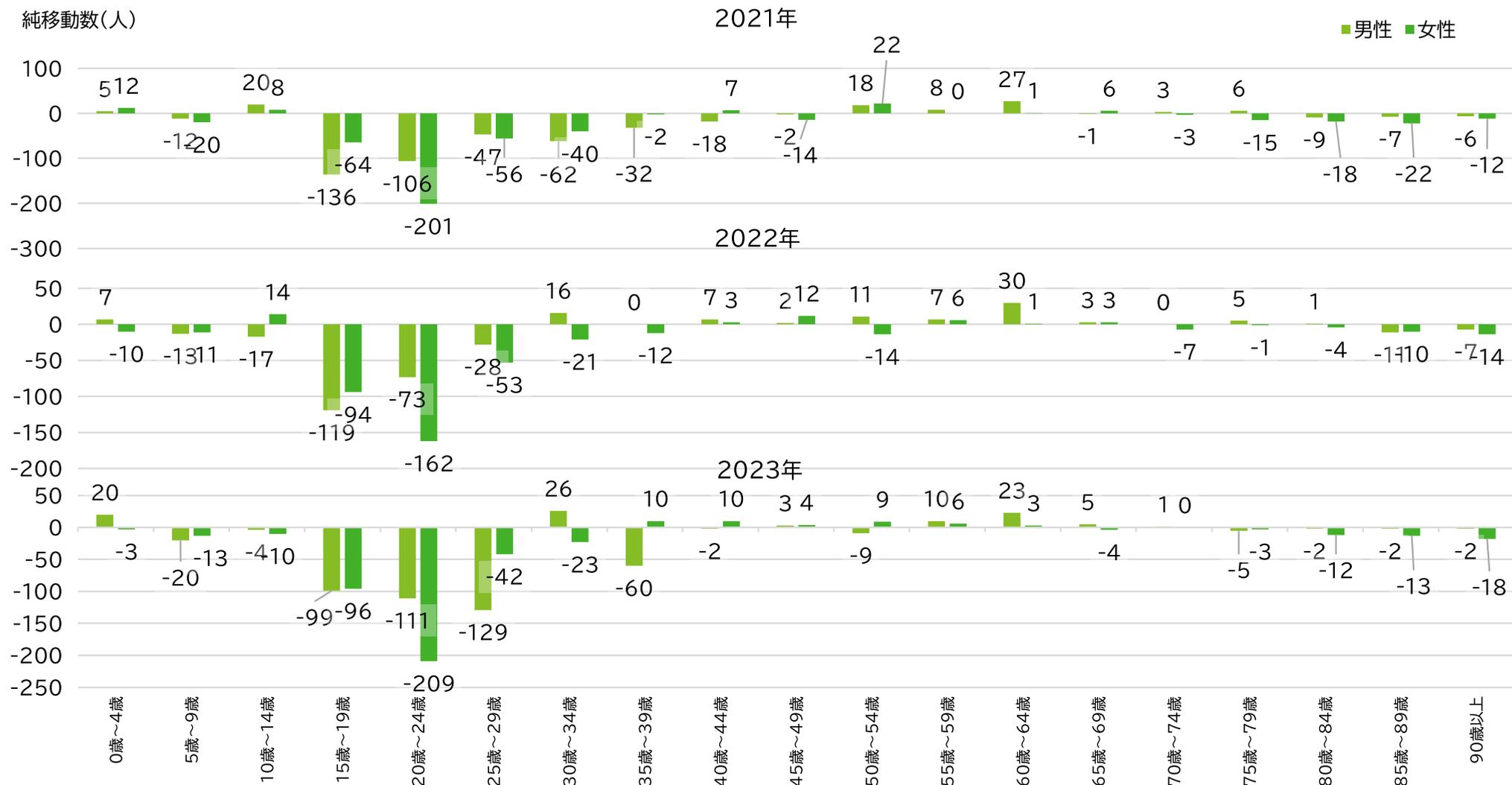
市外への流出通学者数(2020年)



3.社会動態

性別・年齢階級別人口移動の短期的動向

✓ 性別・年齢階級別の人口移動の動向をみると、特に15～29歳における転出が目立つ。
 ✓ 特に20～24歳の転出については、男性よりも女性の転出数が大きくなっているが、これは進学や就職、結婚など新しいライフデザインを考えるにあたり、今治市から転出する女性が多くなっている可能性がある。

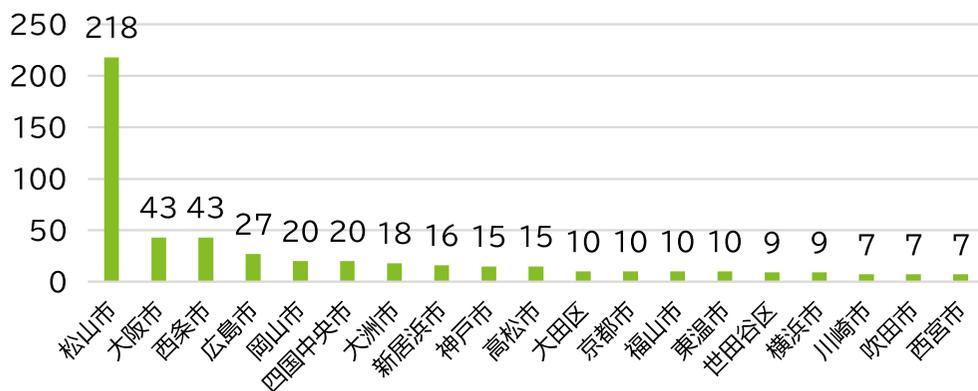


3.社会動態

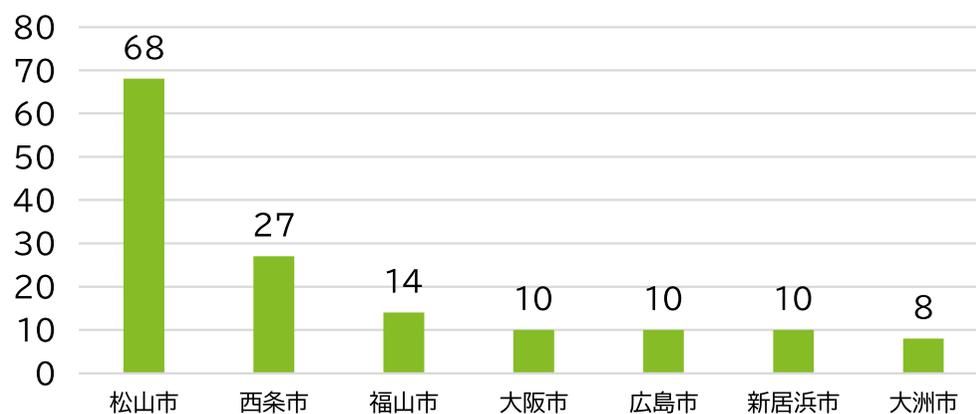
若年層及び子育て世代の人口移動状況

- ✓ 20代、30代の女性に焦点を絞って人口移動状況を確認すると、転入、転出ともに松山市が最も多い。また、大阪市や広島市などの西日本の政令指定都市や、西条市、四国中央市などの近隣都市への移動が目立っている。
- ✓ 若い女性の人口流出を抑制するためには、女性のニーズを把握したうえで、松山市や西条市などの近隣都市への転出を抑制していくことが効果的と思われる。

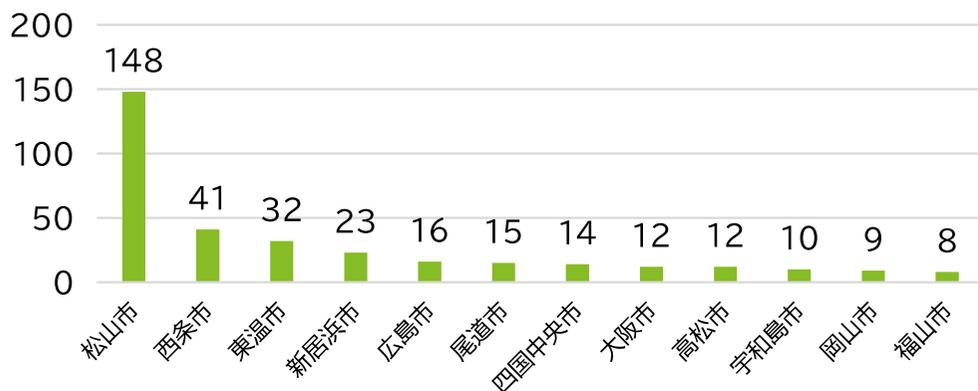
(人) 20～29歳女性の主な転出先(2023年)



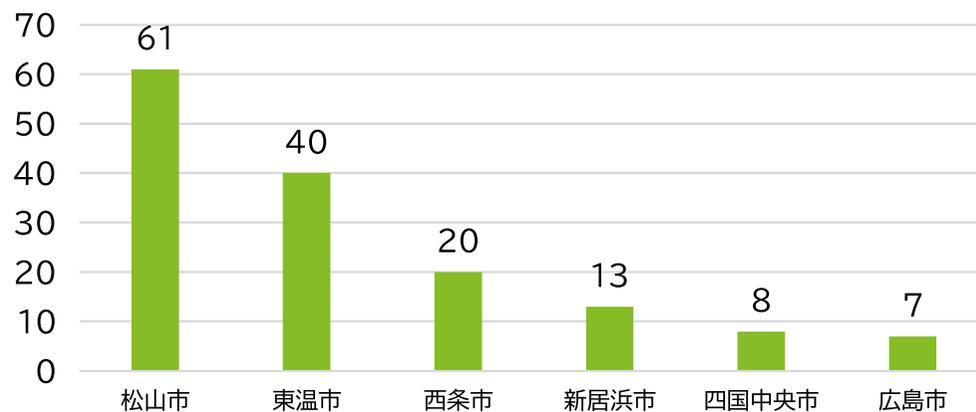
(人) 30～39歳女性の主な転出先(2023年)



(人) 20～29歳女性の主な転入元(2023年)



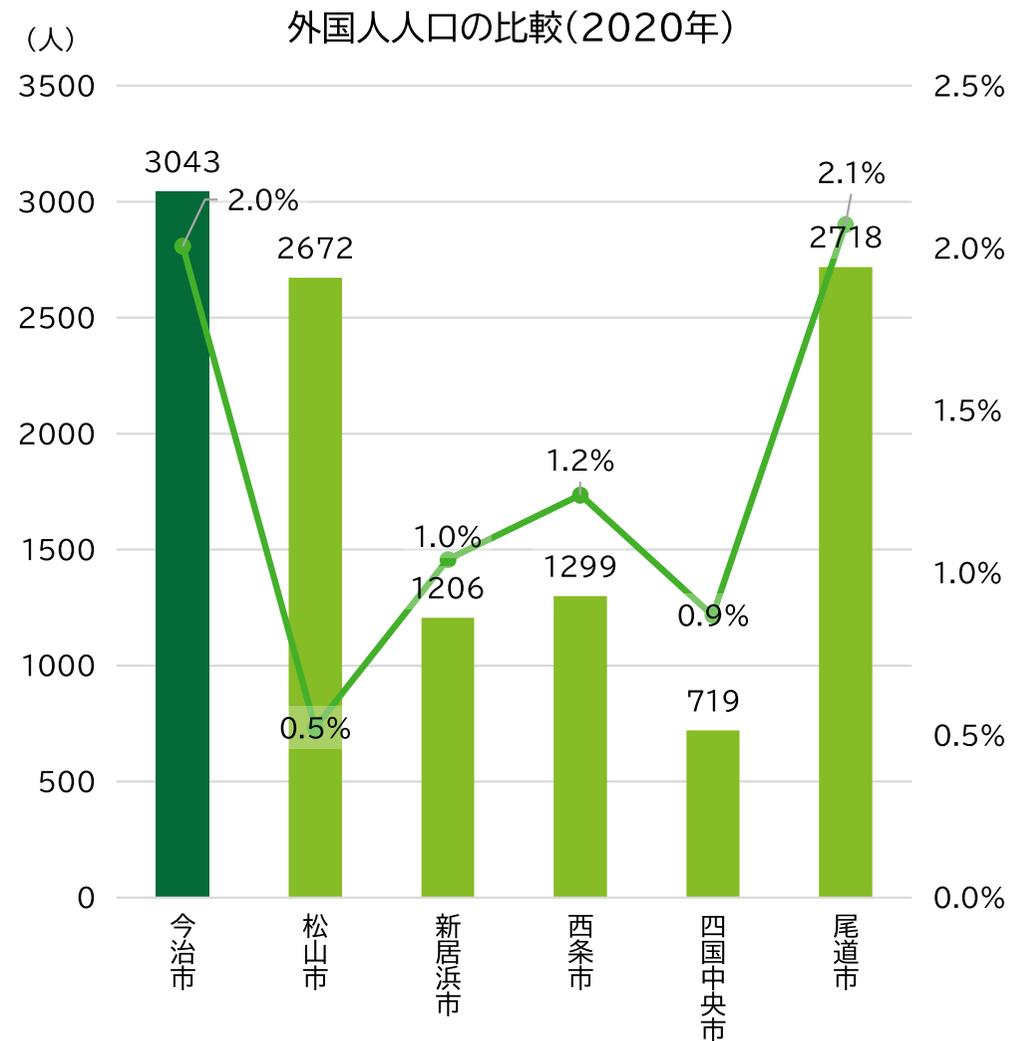
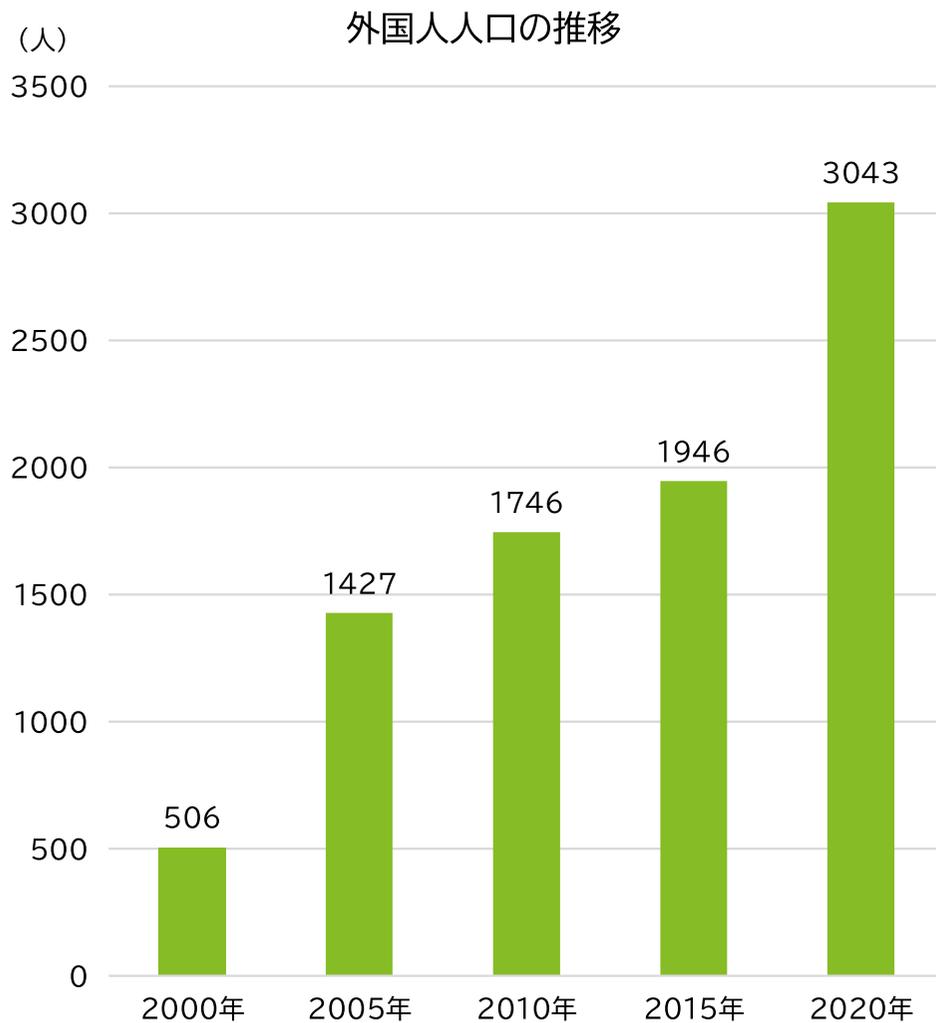
(人) 30～39歳女性の主な転入元(2023年)



3.社会動態

外国人人口の推移と比較

- ✓ 今治市の外国人人口は年々増加傾向にあり、比較対象団体の中でも外国人人口の割合が比較的多い。
- ✓ 今治市は造船・海運業や繊維業などの製造業に強みがあり、それらの業務に従事する外国人労働者が比較的多いものと推察される。

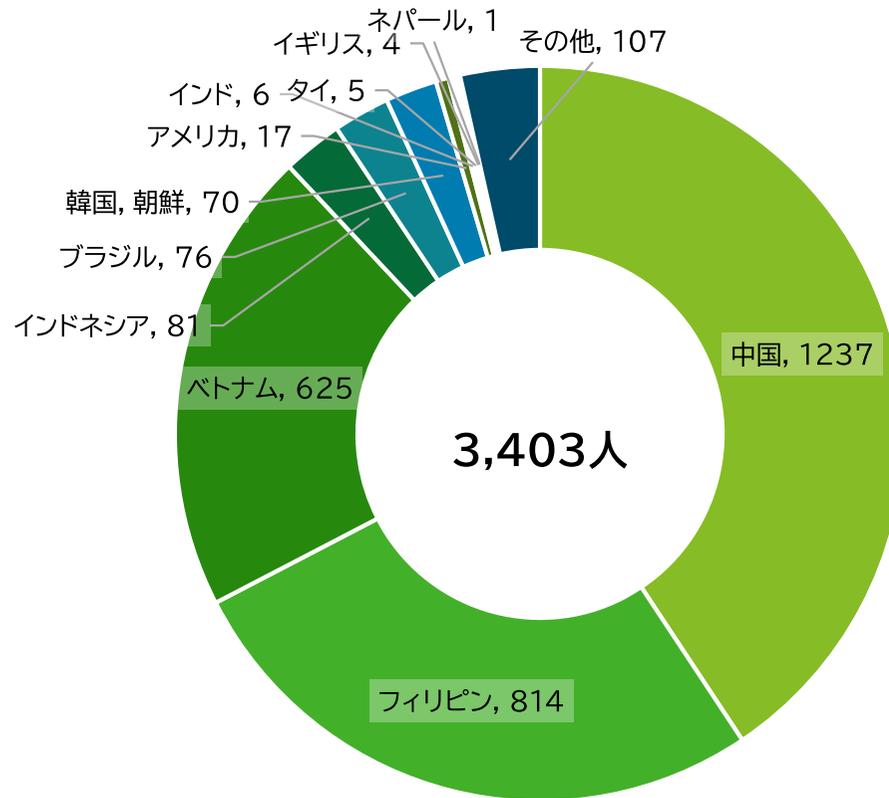


3.社会動態

外国人人口の国籍の内訳

- ✓ 今治市の2020年の外国人人口の国籍内訳をみると、中国、フィリピン、ベトナムに国籍を有する外国人が全体の8割近くを占めていることが分かる。
- ✓ 今治市の外国人の特徴として、フィリピン人が多いことが挙げられる。造船業など独自の基幹産業が発達していることが要因として考えられるが、今後、人材不足の深刻化が進むにつれ、さらなる外国人人材の受け入れが求められる可能性がある。

外国人の国籍内訳(2020年)



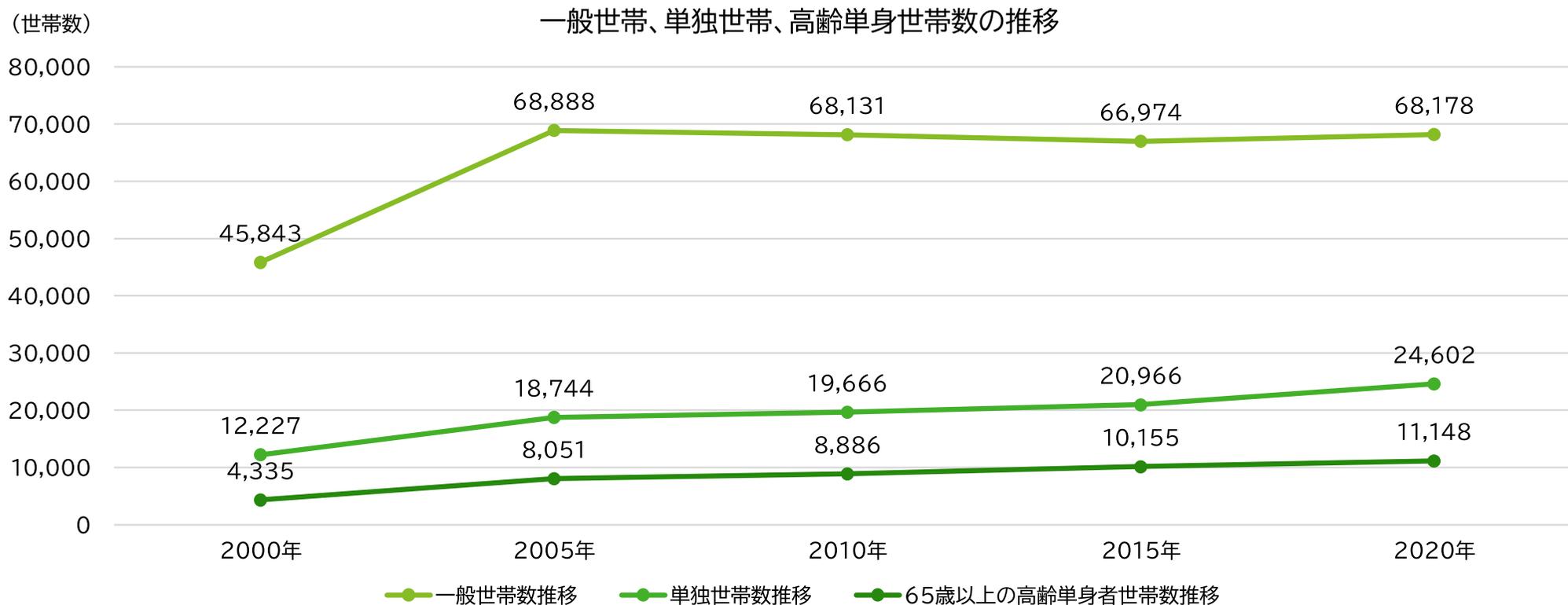
■中国 ■フィリピン ■ベトナム ■インドネシア ■ブラジル ■韓国, 朝鮮 ■アメリカ ■インド ■タイ ■イギリス ■ネパール ■その他

4.世帯

一般世帯・単独世帯・高齢単身世帯数の推移

- ✓ 一般世帯数自体は2005年以降大きく推移していないものの、単独世帯数及び65歳以上の高齢単身世帯数は増加傾向にある。
- ✓ 晩婚化や生産年齢人口の転出が単独世帯、高齢単身世帯の増加に影響していると思われる。今後、さらに増加する高齢単身世帯への介護・福祉サービスの供給が課題になるとと思われる。

- 「一般世帯」:世帯のうち、施設等を除いたもの
- 「単独世帯」:世帯人員が一人の世帯
- 「高齢単身世帯」:65歳以上の者一人のみの一般世帯(他の世帯員がいないもの)

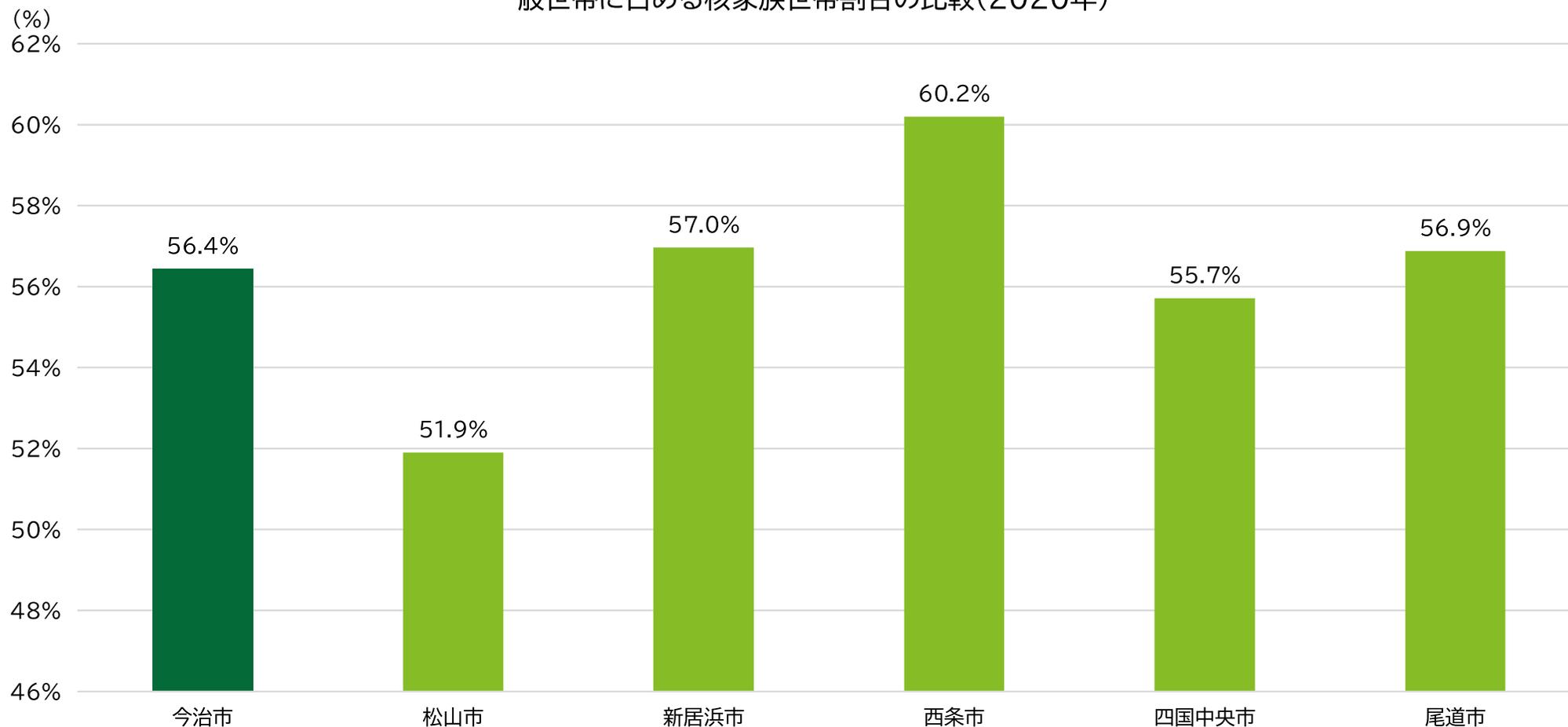


4.世帯

一般世帯に占める核家族世帯の割合

- ✓ 今治市の一般世帯における核家族世帯の割合は、比較団体の中で中間に位置している。
- ✓ 比較団体も含め、総じて一般世帯の半数以上が核家族世帯となっている。比較団体の核家族世帯率を見ると、松山市が最も低く、西条市が最も高い。

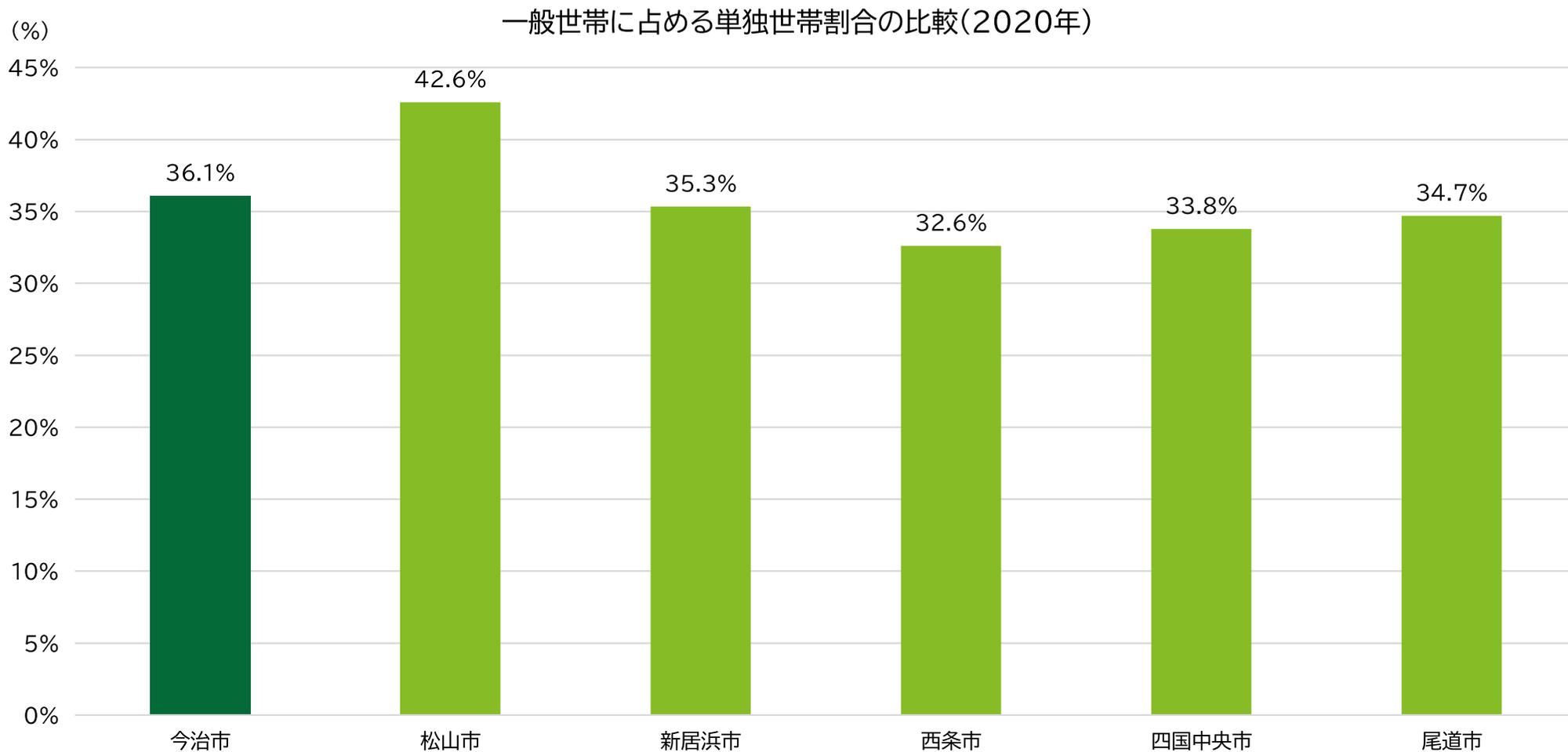
一般世帯に占める核家族世帯割合の比較(2020年)



4.世帯

一般世帯に占める単独世帯の割合

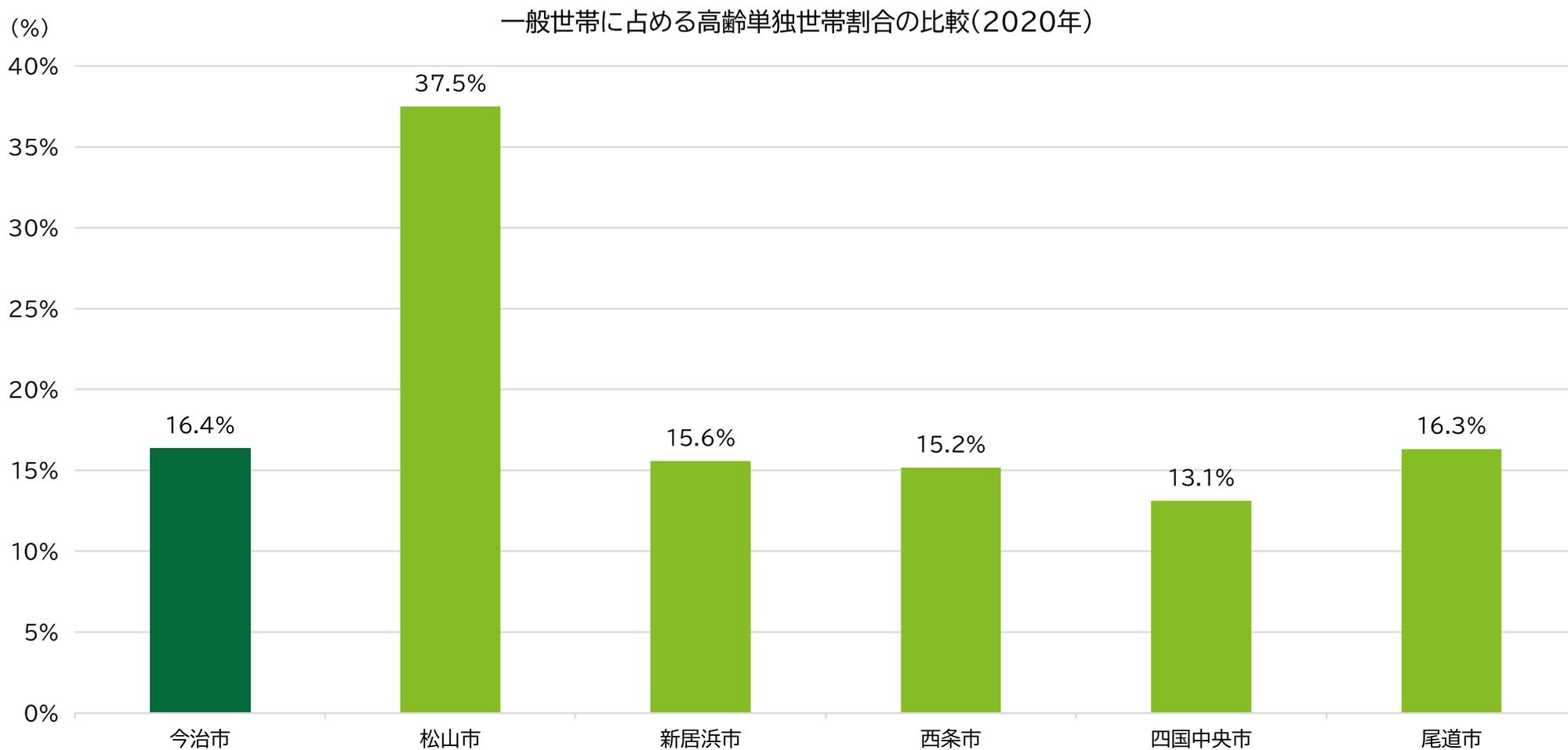
✓ 今治市の一般世帯に占める単独世帯の割合は松山市に次いで2番目に高いものの、松山市を除けば、比較団体と概ね同程度の水準となっている。



4.世帯

一般世帯に占める高齢単独世帯の割合

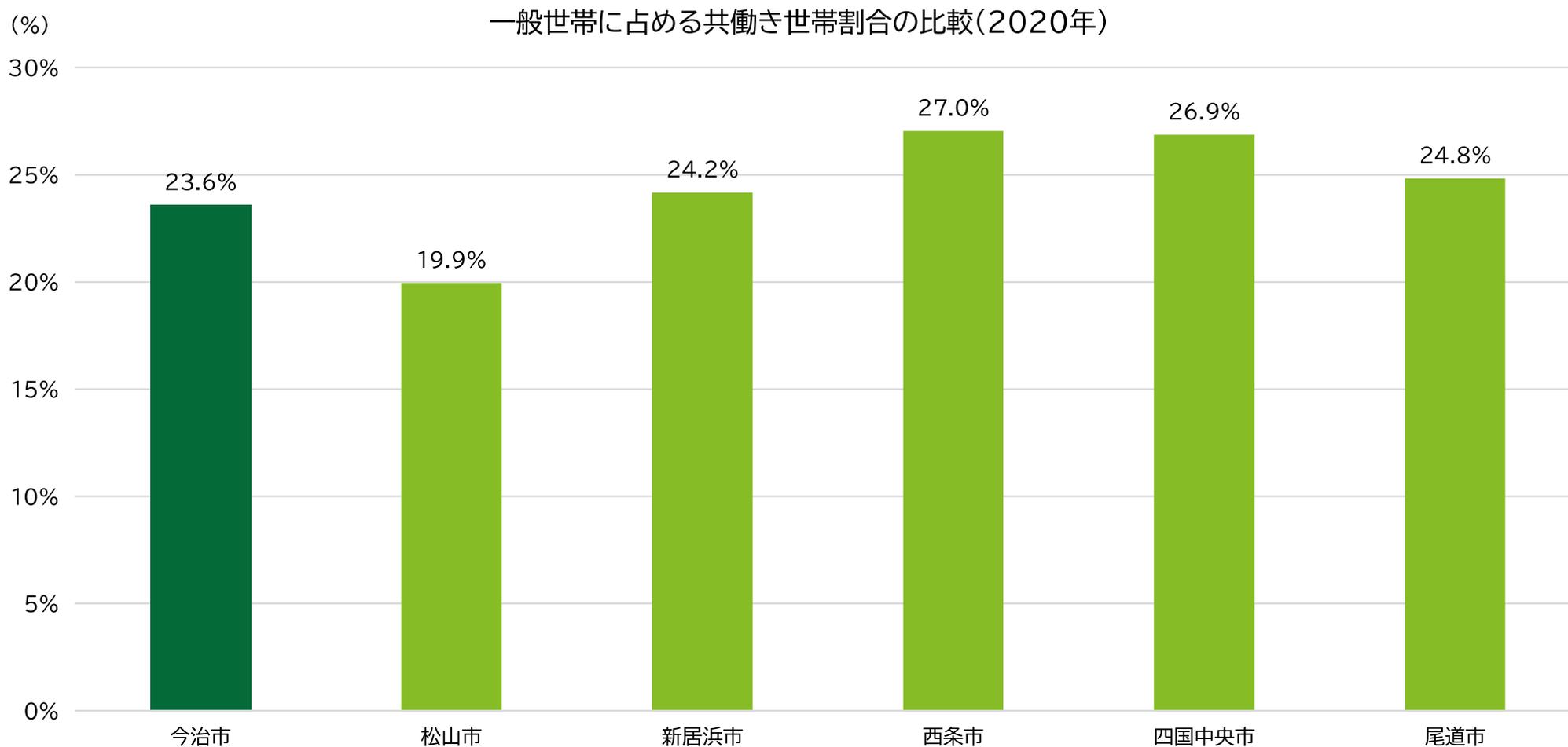
- ✓ 今治市の一般世帯に占める高齢単独世帯の割合は松山市に次いで2番目に高いものの、松山市を除けば、比較団体と概ね同程度の水準となっている。
- ✓ 松山市は、単独世帯のうちの大半は高齢単独世帯となっている。



4.世帯

一般世帯に占める共働き世帯の割合

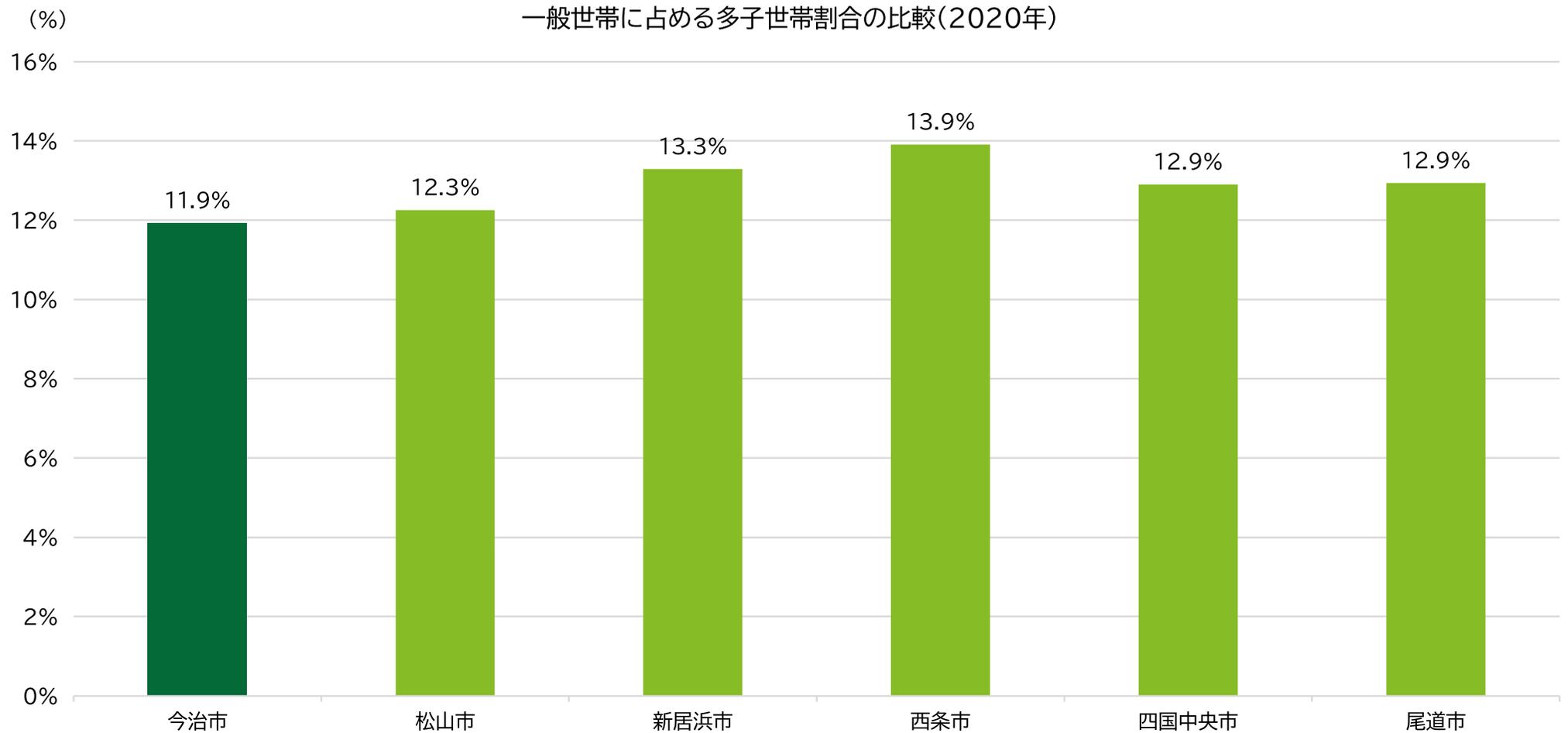
- ✓ 今治市の一般世帯に占める共働き世帯割合は、松山市に次いで2番目に低い値となっている。
- ✓ 様々な要因が考えられるが、今治市内で子育てを行う上で、引き続き子育てと仕事の両立ができるよう支援を行っていく必要があると考えられる。



4.世帯

一般世帯に占める多子世帯の割合

- ✓ 今治市の一般世帯に占める多子世帯割合は比較団体の中で最も低くなっている。
- ✓ 自然増減の改善のため、2人目、3人目の出産を支援していく必要があると考えられる。

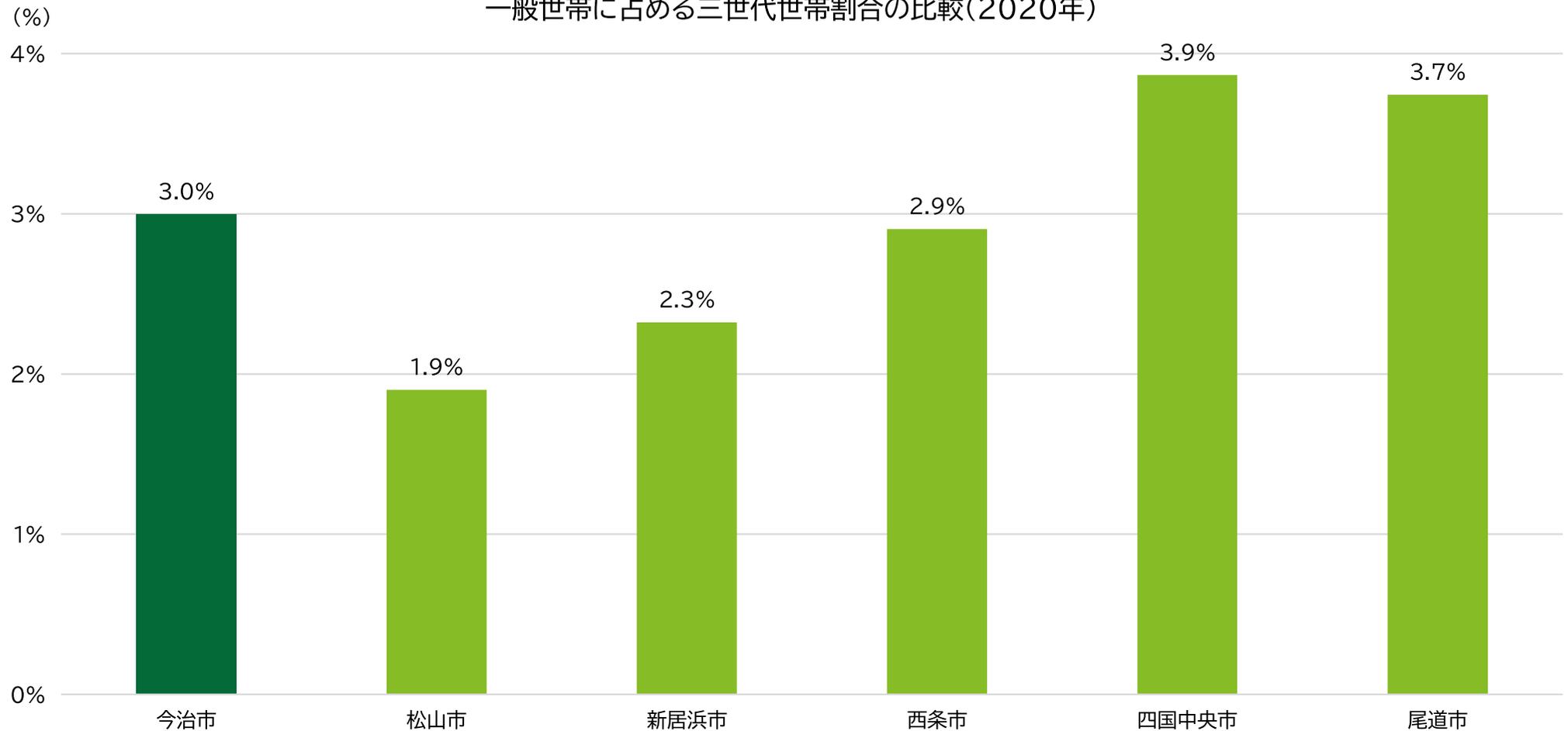


4.世帯

一般世帯に占める三世代世帯の割合

- ✓ 今治市の一般世帯に占める三世代世帯の割合は比較団体の中では中間に位置している。
- ✓ 比較団体と比べて突出した数値ではないものの、三世代世帯の割合は3.0%となっており、祖父母の子育てのサポートを受けられない世帯が多い可能性もある。

一般世帯に占める三世代世帯割合の比較(2020年)

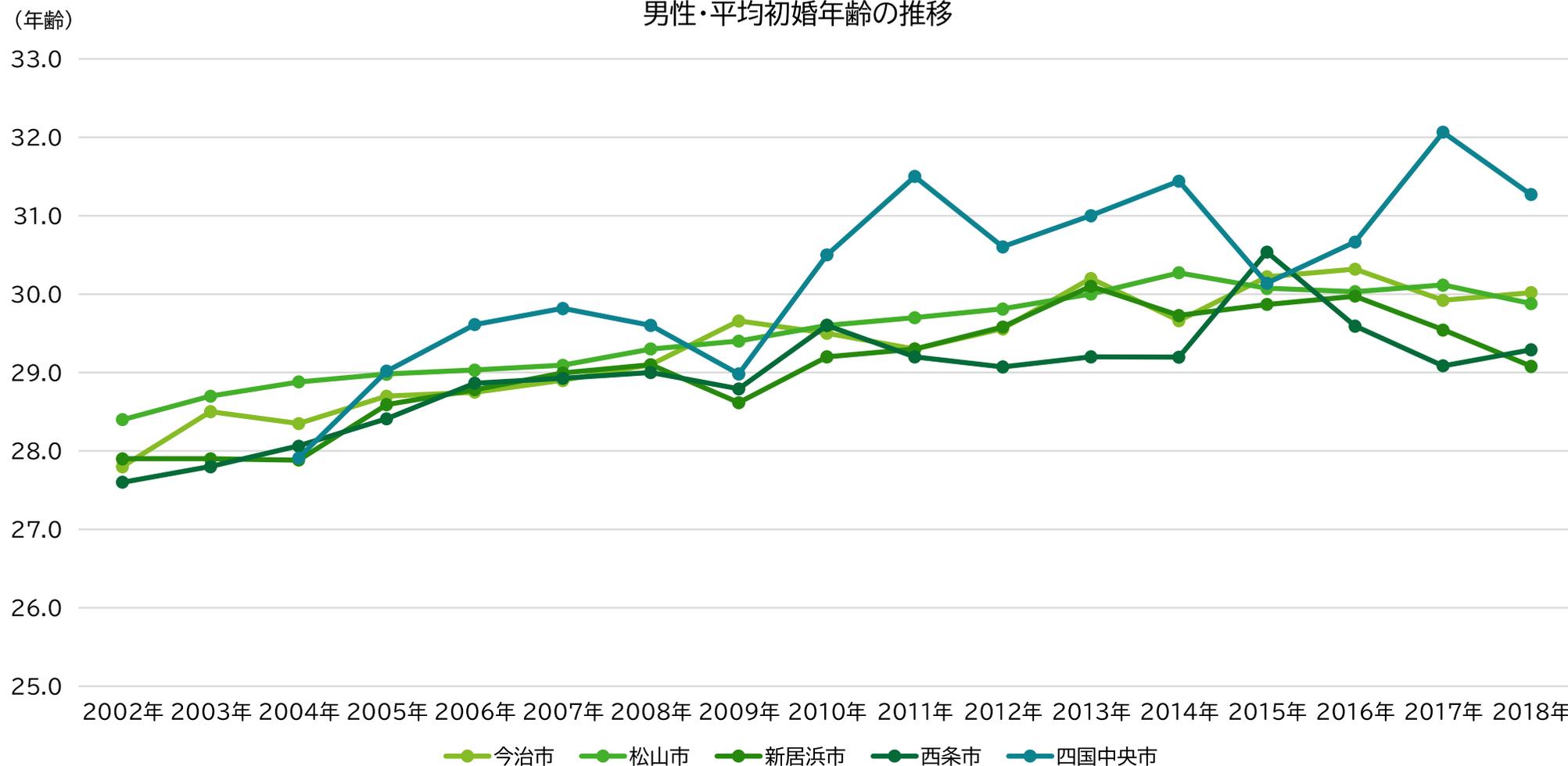


5.婚姻

平均初婚年齢の推移(男性)

- ✓ 今治市の男性の平均初婚年齢は上昇傾向にあり、2018年時点の平均初婚年齢は30.0歳となっている。
- ✓ 比較対象団体の中で、2018年時点の平均初婚年齢が最も低い団体は新居浜市の29.1歳である。
- ✓ いずれの団体においても男性の平均初婚年齢は上昇傾向であるところ、価値観の変化、出会いの機会の減少など、様々な要因が考えられる。

男性・平均初婚年齢の推移



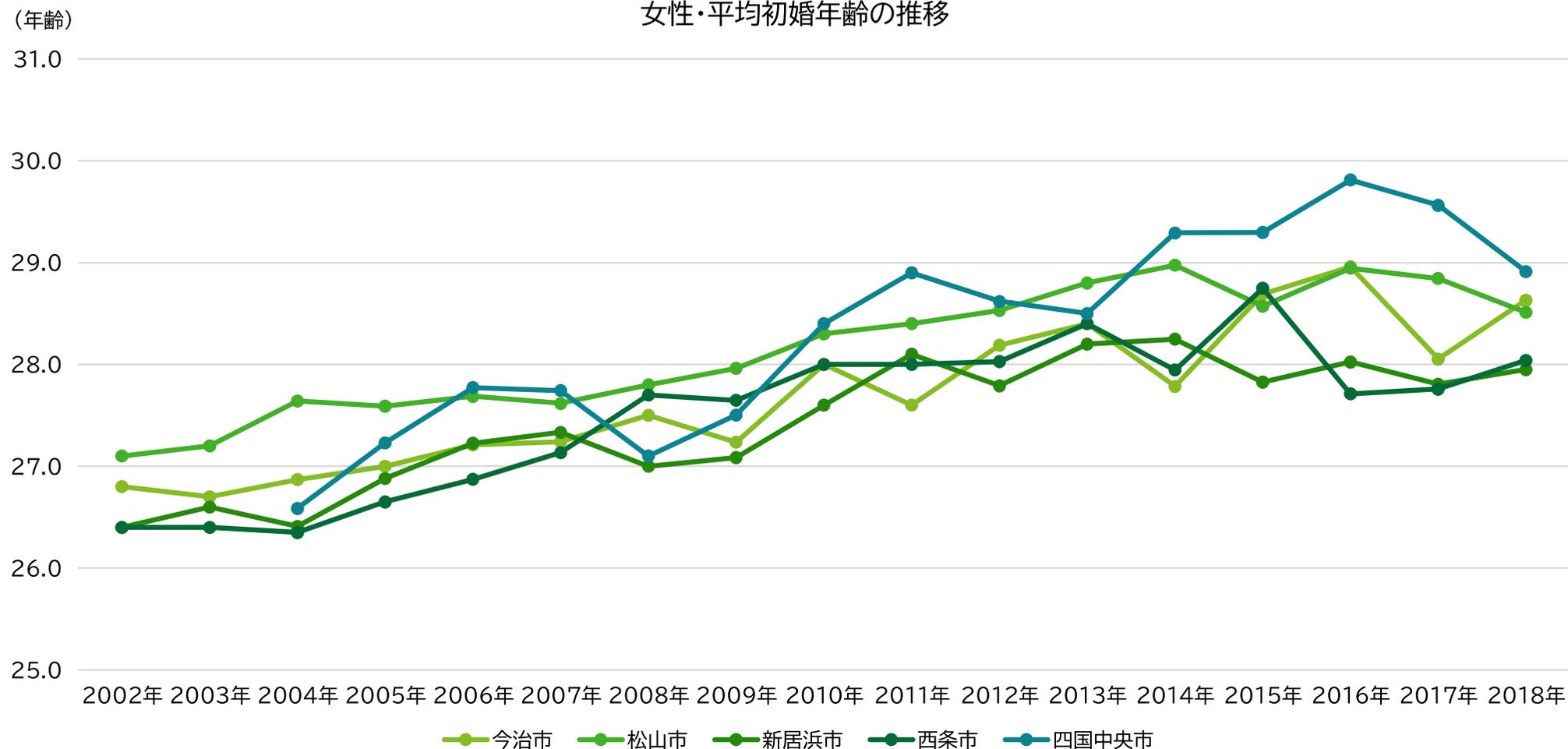
※尾道市の平均所高年齢は公表されていない

5.婚姻

平均初婚年齢の推移(女性)

- ✓ 今治市の女性の平均初婚年齢は、長期的にみると上昇傾向にあり、2018年時点の平均初婚年齢は28.6歳となっている。
- ✓ 比較対象団体の中で、2018年時点の平均初婚年齢が最も低い団体は新居浜市の28.0歳である。
- ✓ 女性の平均初婚年齢は、男性同様に比較対象団体全体で上昇傾向であり、昨今の価値観の変容や物価高による経済的な不安を考慮すると、ますます晩婚化が進んでいくものと思われる。

女性・平均初婚年齢の推移



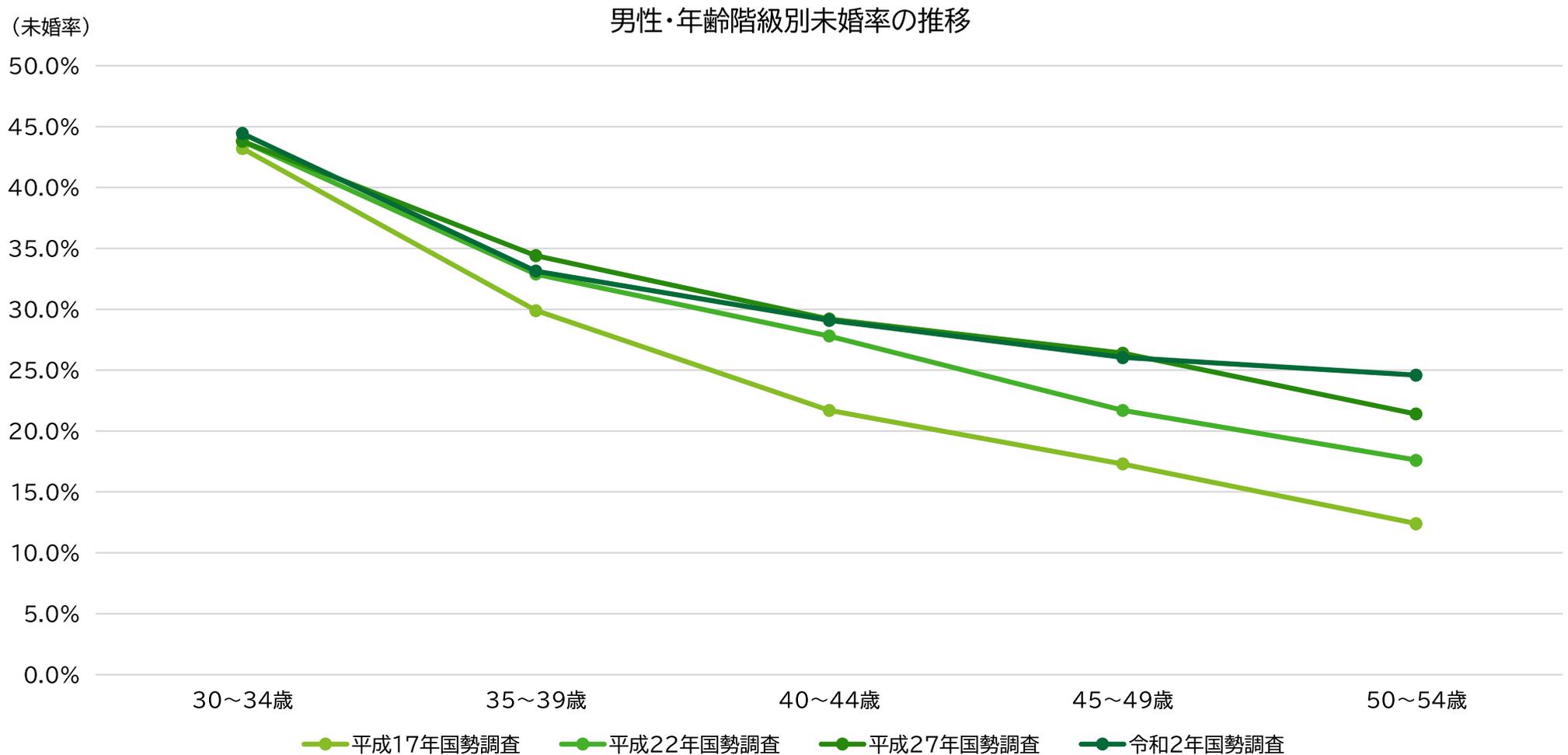
※尾道市の平均所高年齢は公表されていない

出典:愛媛県「保健統計年報」

5.婚姻

年齢階級別未婚率の推移(男性)

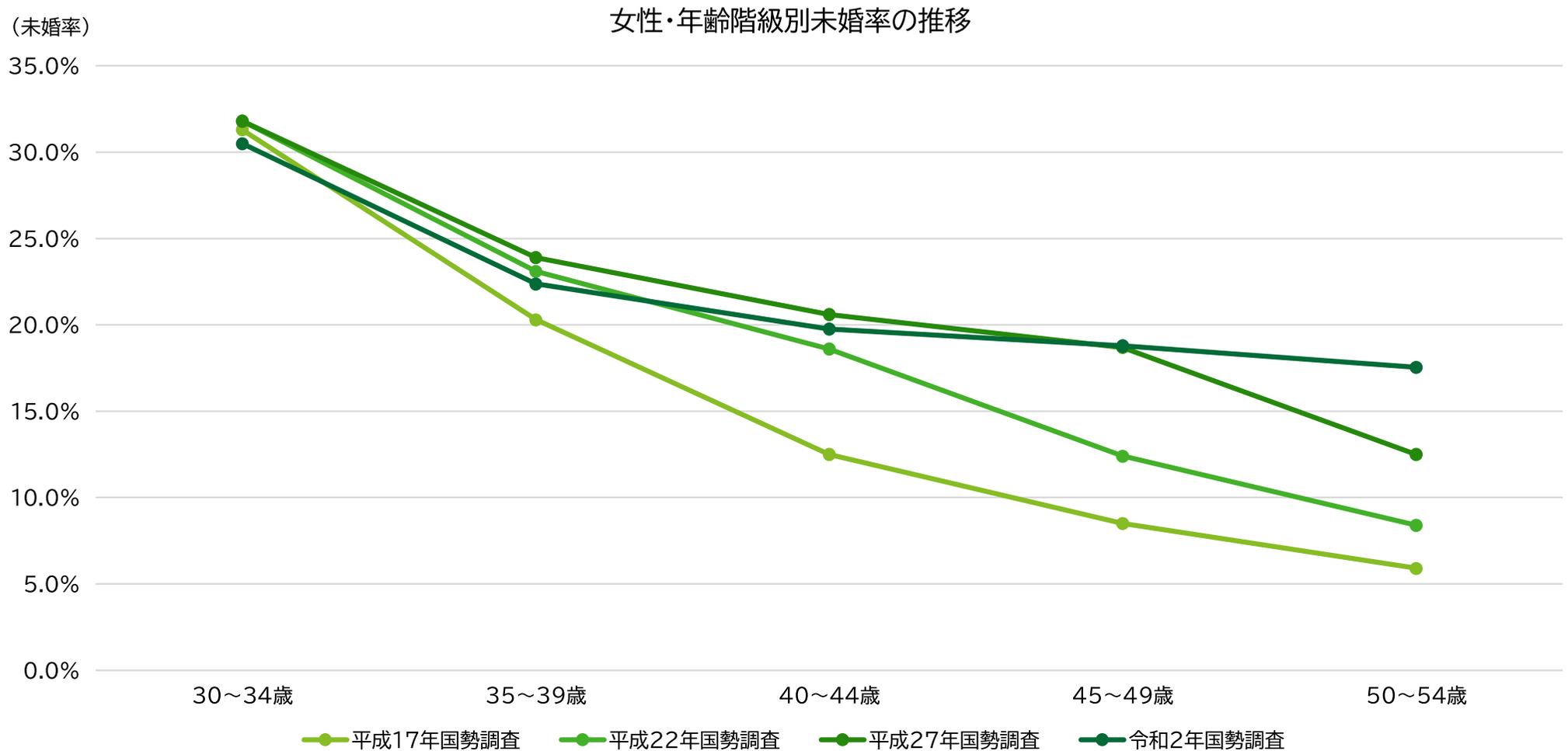
- ✓ 今治市の男性の年齢階級別未婚率の推移をみると、30～34歳時点での未婚率は平成17年調査時と令和2年調査時で大きな差がない一方で、35歳以降の年齢の未婚率は平成17年調査時より高くなっていることが分かる。
- ✓ 今治市においては、晩婚化が進んでいるというよりは、そもそも結婚をしない市民の割合が増加しているものと思われる。



5.婚姻

年齢階級別未婚率の推移(女性)

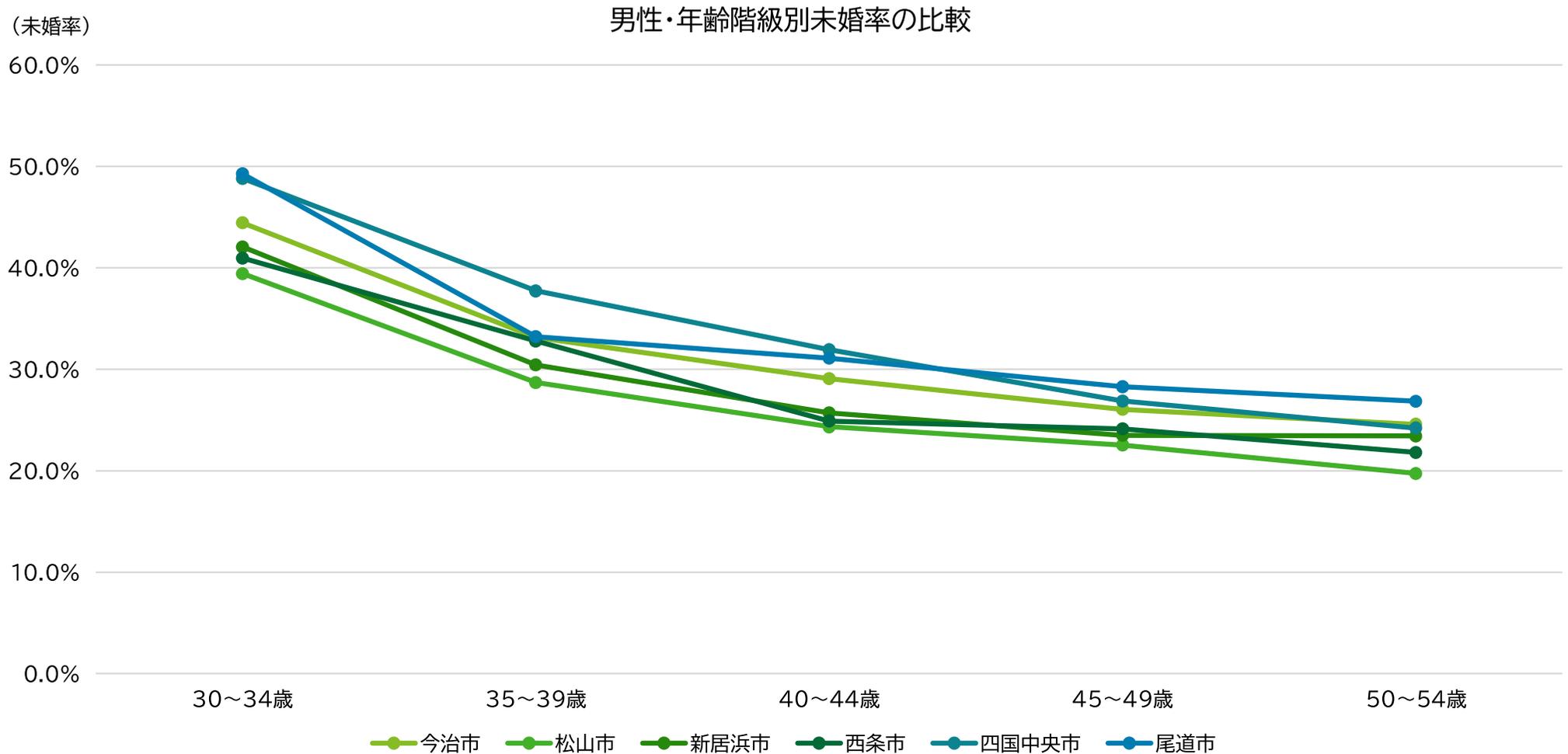
- ✓ 今治市の女性の年齢階級別未婚率の推移をみると、男性同様、30～34歳時点での未婚率は平成17年調査時と令和2年調査時で大きな差がない一方で、35歳以降の年齢の未婚率は平成17年調査時より高くなっていることが分かる。
- ✓ 女性の社会進出が進んだことにより、独身のまま自身の収入で生活ができる女性が増えたことが要因と考えられる。



5.婚姻

年齢階級別未婚率の比較(男性)

- ✓ 今治市の男性の年齢階級別未婚率は、比較対象団体の中では中位に位置している。
- ✓ 比較対象団体の中では、松山市が全年齢階級で最も未婚率が低くなっており、人口が多いことで出会いの場が確保されていることや、家族連れや若い女性が松山市に流入していることなどが要因として考えられる。



5.婚姻

年齢階級別未婚率の比較(女性)

- ✓ 今治市の女性の年齢階級別未婚率は、30～34歳の時点では比較対象団体の中では中位に位置しているが、45歳以上の時点では最も高い。
- ✓ 比較対象団体の中では、松山市が全年齢階級で最も未婚率が高く、女性の働く場が確保されていることにより、結婚をしない女性が多くなっているものと推察される。

